

孝孫
里尺
八犬傳

^ 13
3704
8



門 へ13
號 3704
卷 8

月雪花の名評へ人多く集會し詠中み雅俗あり詩歌文章
三弦酒宴數へ見るみ雅あるも少く俗あるも多し物の
本を著すもの由此大江戸の文の華詞の林み分入りて流行を
競ふもの日新み月み昌也大声里耳み入らむとやうんささ
婦幼し流行まどと書賈の告るへ實也雅俗その品多かれも俗
多方入用へ及ばざるの早き成知るべしさればかるよみ矣傳今年も
既み丑編の抄録終りし札の上繕く書み名所を搜索ねんぞ
新奇多序文いるを考へ見ても思ひぬ下よの筆鋒喫煙の
間雅俗を雜へ謾言の序らへて幾千代と述べ

嘉永六癸丑年秋稿成
同七甲寅年初春新刻

十 曲亭琴童誌

琴童





あはれ
あはれ
あはれ

夕作のあはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



二
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



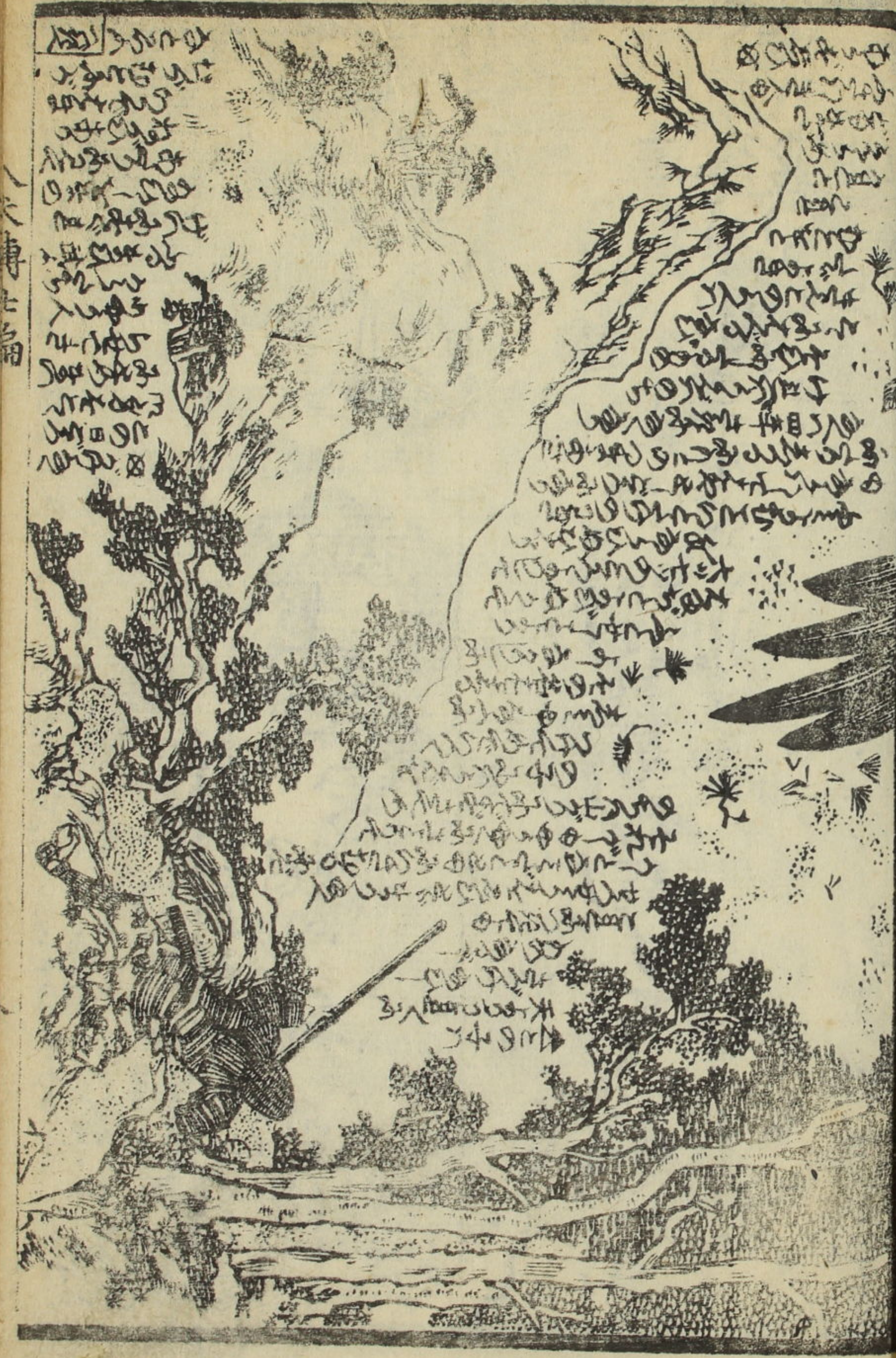
丹三郎さんいひて
おふつと...
おん...
あひい...

あひい...
あひい...
あひい...
あひい...



あひい...
あひい...
あひい...

あひい...
あひい...
あひい...
あひい...



大傳九緒



大傳九緒



八景下巻

△この
まつたま
このまつたま
△このま
このま
△このま
このま
△このま
このま

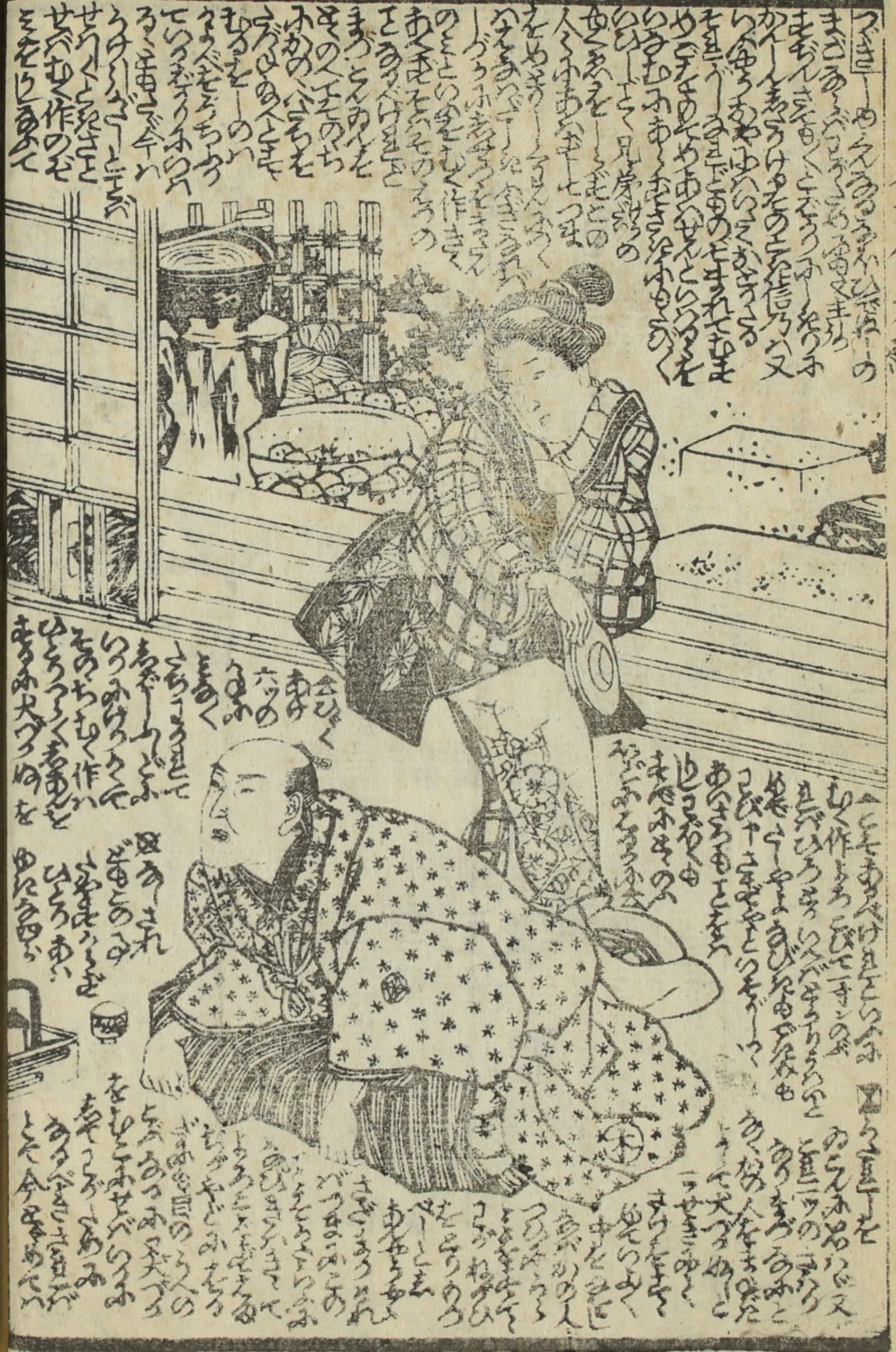
△このま
このま
△このま
このま

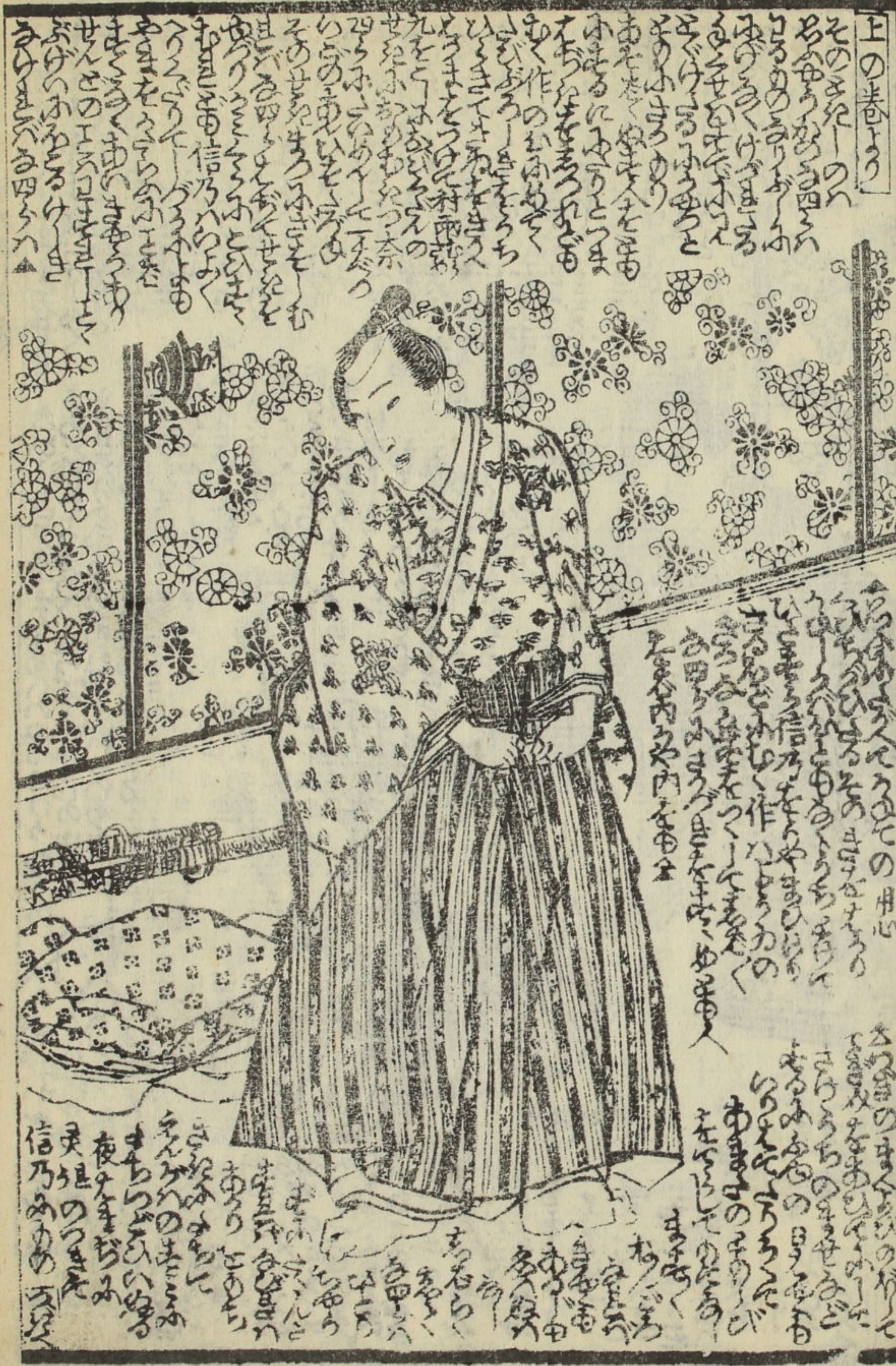


八景下巻

△このま
このま
△このま
このま
△このま
このま

△このま
このま
△このま
このま





上の巻のう
そのまへ
... (transcription of vertical text)

... (transcription of vertical text)

... (transcription of vertical text)

琴童抄録

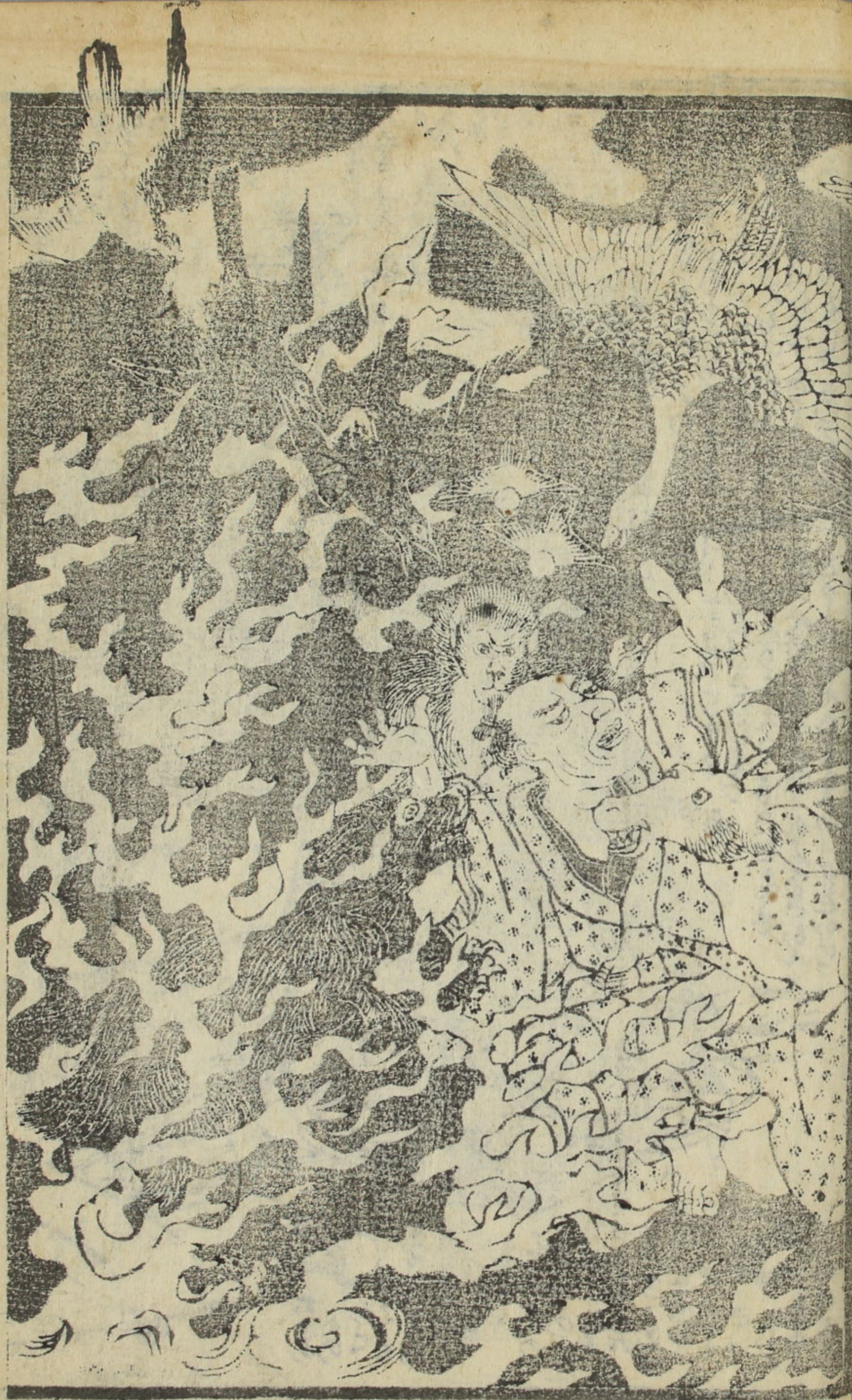
... (transcription of vertical text)

國芳画圖



... (transcription of vertical text)

... (transcription of vertical text)



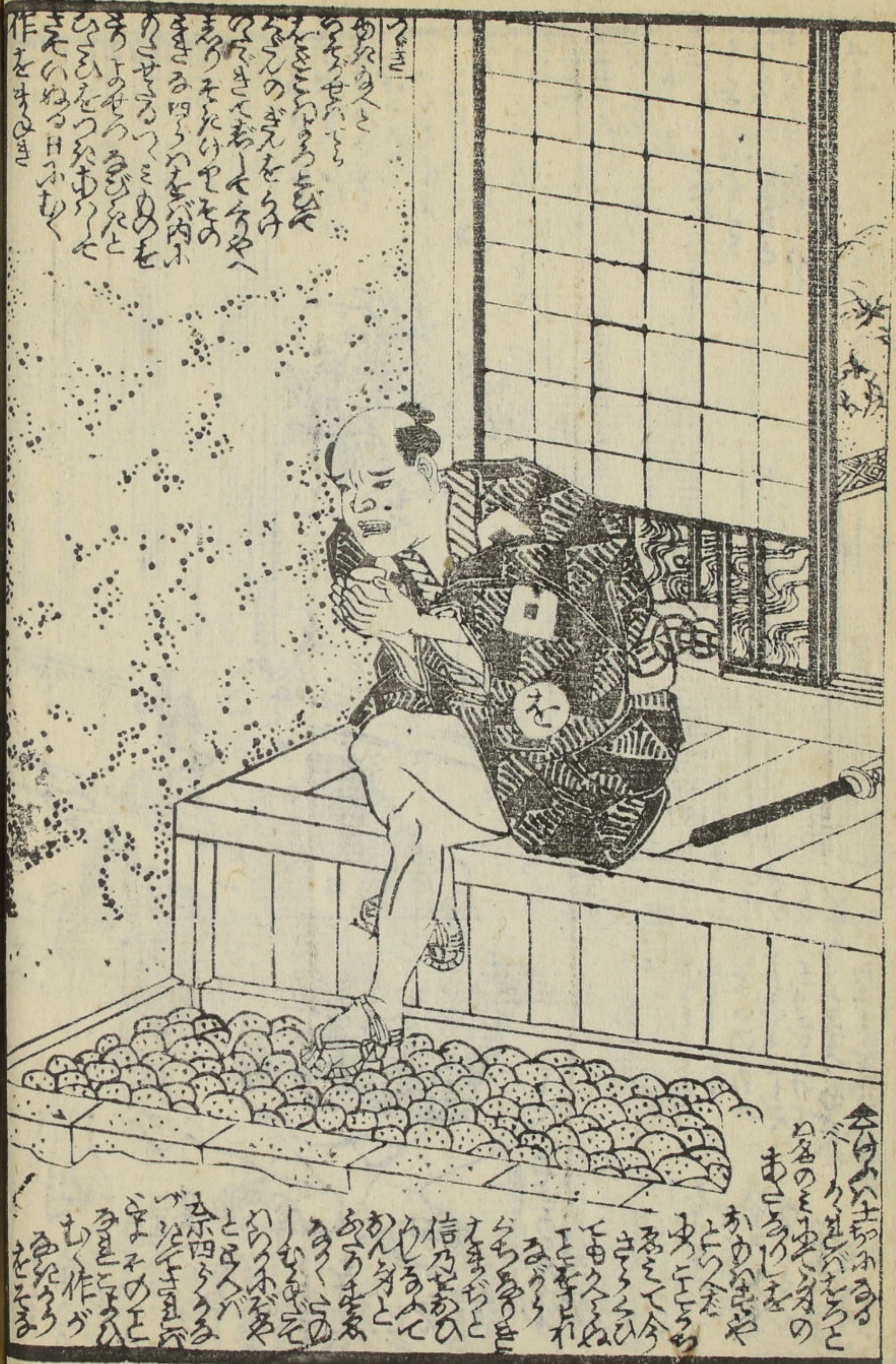
八代将軍

十一



八代将軍

十二



信乃の言を聞き
 ありそなりやその
 ままの四つんばを内小
 のせざるつとめを
 手の上のせざるつとめと
 ひとをうつたむりて
 さいのぬる日むく
 作をすひま

信乃の言を聞き
 ありそなりやその
 ままの四つんばを内小
 のせざるつとめを
 手の上のせざるつとめと
 ひとをうつたむりて
 さいのぬる日むく
 作をすひま



信乃の言を聞き
 ありそなりやその
 ままの四つんばを内小
 のせざるつとめを
 手の上のせざるつとめと
 ひとをうつたむりて
 さいのぬる日むく
 作をすひま

信乃の言を聞き
 ありそなりやその
 ままの四つんばを内小
 のせざるつとめを
 手の上のせざるつとめと
 ひとをうつたむりて
 さいのぬる日むく
 作をすひま

曲亭琴童抄錄



一勇齋國芳画圖

家傳便女湯（女湯） 百代編
 精奇（精奇） 大徳堂書畫家
 熊胆黒守（熊胆） 百代編
 婦人書の業（婦人書） 百代編
 制茶茶家器備町濰澤氏
 弘野元飯間書下 乃沢氏

經傳史子を讀（經傳史子）とも昔字年を積（昔字年）ればその理（その理）を明（明）るると難（難）う。はるばる男子（男子）と
 生れてもい（い）まゝ聖教を聴（聖教を聴）けるあり況（況）や婦幼（婦幼）とや人の善（善）悪（悪）を見（見）ると我（我）もこの善（善）
 あんてんてん思（思）ひ又悪事（悪事）と見て懼（懼）れ慎（慎）むと云（云）ふ善（善）悪（悪）とて吾師（吾師）も果敢（果敢）て筆（筆）
 物語も經史（經史）の意味（意味）を失（失）いでよく懃（懃）懲（懲）を正（正）しくもな（な）む世（世）の教（教）來（來）とも辨（辨）へぬ
 婦幼（婦幼）の教（教）草（草）は是（是）れ増（増）と捷（捷）經（經）々（々）と云（云）ふ祖父（祖父）の夜話（夜話）も折（折）々（々）同（同）なる
 野（野）舎（舎）の耳底（耳底）も残り（残り）て忘（忘）れぬ去（去）々（々）歳（歳）の冬（冬）より（より）てこの合（合）巻（巻）の筆（筆）採（採）り
 初（初）めて本文（本文）は只原書（原書）の抄録（抄録）切（切）て序文（序文）も櫻花丹楓（櫻花丹楓）見（見）せん（せん）と云（云）ふと拙（拙）き
 才（才）飾（飾）る（る）より（より）また綾錦（綾錦）なる（なる）と早（早）き月（月）と日（日）の学（学）の暇（暇）燈（燈）を掲（掲）げて（と）あ（あ）ふ（ふ）二編（二編）
 のと嗚呼（嗚呼）が（が）う（う）た序（序）関（関）ま（ま）る（る）奈（奈）良（良）茶屋（茶屋）の煮（煮）豆（豆）去（去）歳（歳）の餅（餅）固（固）ら（ら）う（う）と
 看官（看官）の厭（厭）ふ（ふ）べ（べ）と（と）百（百）も承知（承知）た（た）三（三）文（文）の智（智）恵（恵）もあ（あ）け（け）と（と）十（十）惠（惠）の一（一）得（得）あ
 とう（とう）と思（思）ふ（ふ）と（と）う（う）小（小）自序（自序）と（と）の（の）人（人）

嘉永六癸丑年冬稿成同七甲寅秋新刻

曲亭琴童識





古今集第五

とみ人まゝに

海ふも

山田

守

あ

も

も

標

茶の

子

あ

あ

あ

武田
信昌



琴
童

里見の五
演路
姫

生

非

小

相

同

あ

あ

あ

つた 中六六のあがりよあいの
 きたせうろはまをまめりん
 七ころのあうあをまを
 ありまをまのあやと
 らしじまのあやと
 どの二うああなる
 りあかう犬つあも
 あまぬとるあに
 ぞりあはあに
 たのめ六信乃のあ
 つたてあまぬとる
 このあうの二うあ
 のあはあに
 まうあをあ
 まてあまぬとる
 せよまあに
 下あに
 あひまらまを
 みの七う
 ようあをあ
 せよまあに



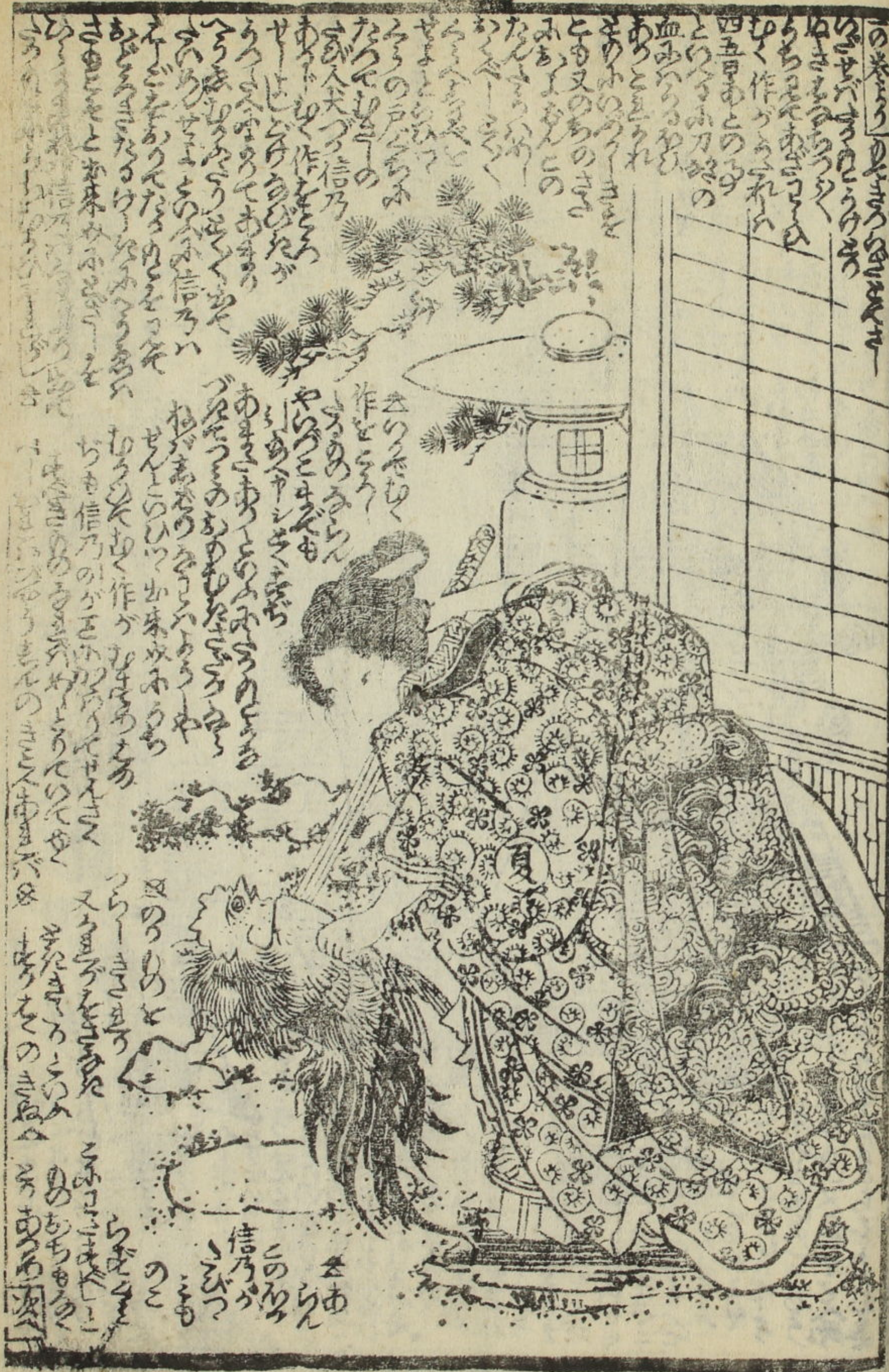
あまぬとるあに
 らしじまのあやと
 どの二うああなる
 りあかう犬つあも
 あまぬとるあに
 ぞりあはあに
 たのめ六信乃のあ
 つたてあまぬとる
 このあうの二うあ
 のあはあに
 まうあをあ
 まてあまぬとる
 せよまあに
 下あに
 あひまらまを
 みの七う
 ようあをあ
 せよまあに

あひまらまを
 らしじまのあやと
 どの二うああなる
 りあかう犬つあも
 あまぬとるあに
 ぞりあはあに
 たのめ六信乃のあ
 つたてあまぬとる
 このあうの二うあ
 のあはあに
 まうあをあ
 まてあまぬとる
 せよまあに
 下あに
 あひまらまを
 みの七う
 ようあをあ
 せよまあに

つた 中六六のあがりよあいの
 きたせうろはまをまめりん
 七ころのあうあをまを
 ありまをまのあやと
 らしじまのあやと
 どの二うああなる
 りあかう犬つあも
 あまぬとるあに
 ぞりあはあに
 たのめ六信乃のあ
 つたてあまぬとる
 このあうの二うあ
 のあはあに
 まうあをあ
 まてあまぬとる
 せよまあに
 下あに
 あひまらまを
 みの七う
 ようあをあ
 せよまあに



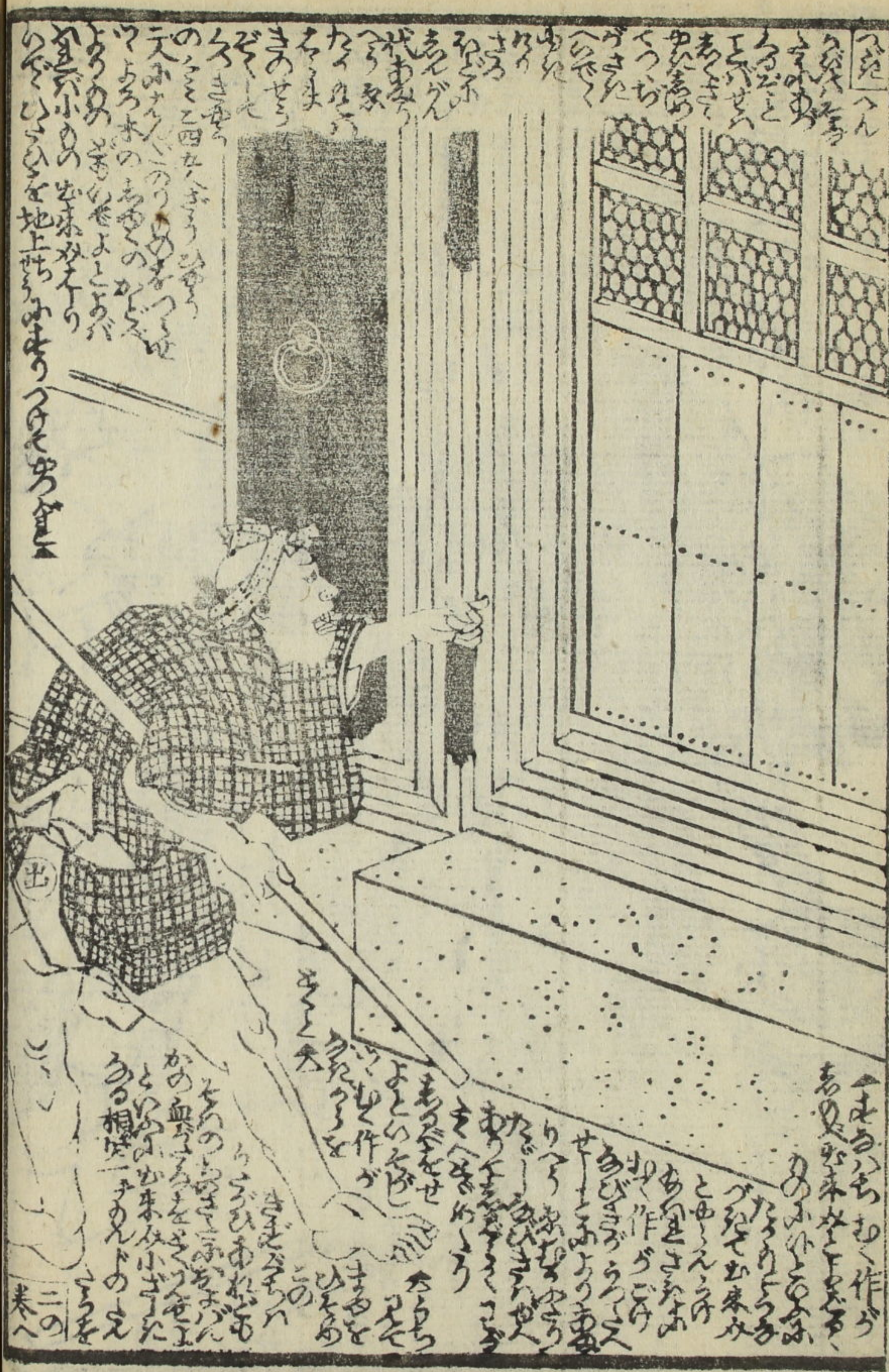
あひまらまを
 らしじまのあやと
 どの二うああなる
 りあかう犬つあも
 あまぬとるあに
 ぞりあはあに
 たのめ六信乃のあ
 つたてあまぬとる
 このあうの二うあ
 のあはあに
 まうあをあ
 まてあまぬとる
 せよまあに
 下あに
 あひまらまを
 みの七う
 ようあをあ
 せよまあに



この巻より信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...

信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...

信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...



信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...

信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...

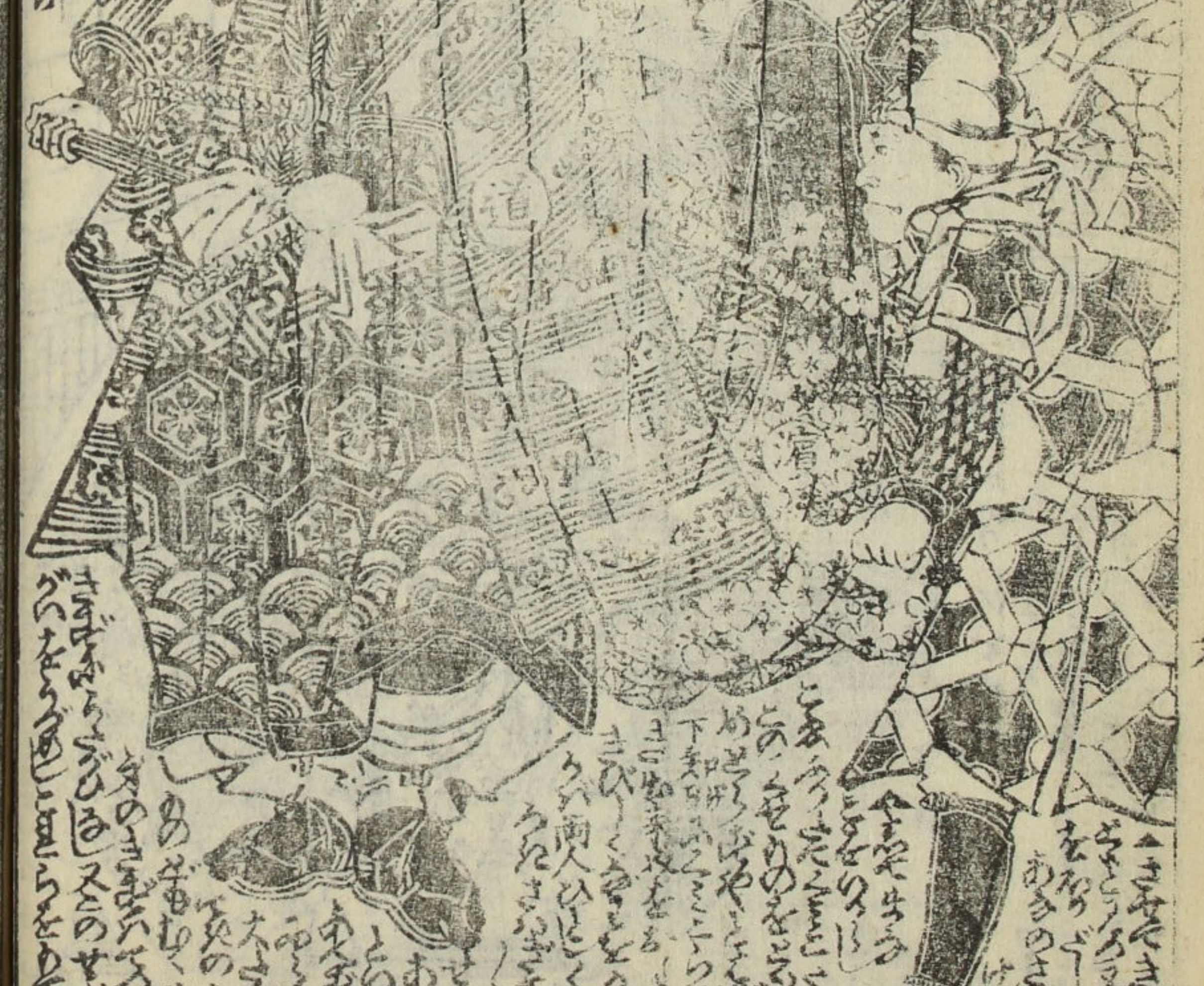
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...
信乃の事...

ついでに信乃と云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...



信乃の心...
 ちよとせ...
 正のらく...
 ちよとせ...
 正のらく...
 ちよとせ...
 正のらく...

信乃と云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...
 身の上も又出来...
 らうと云ふは...

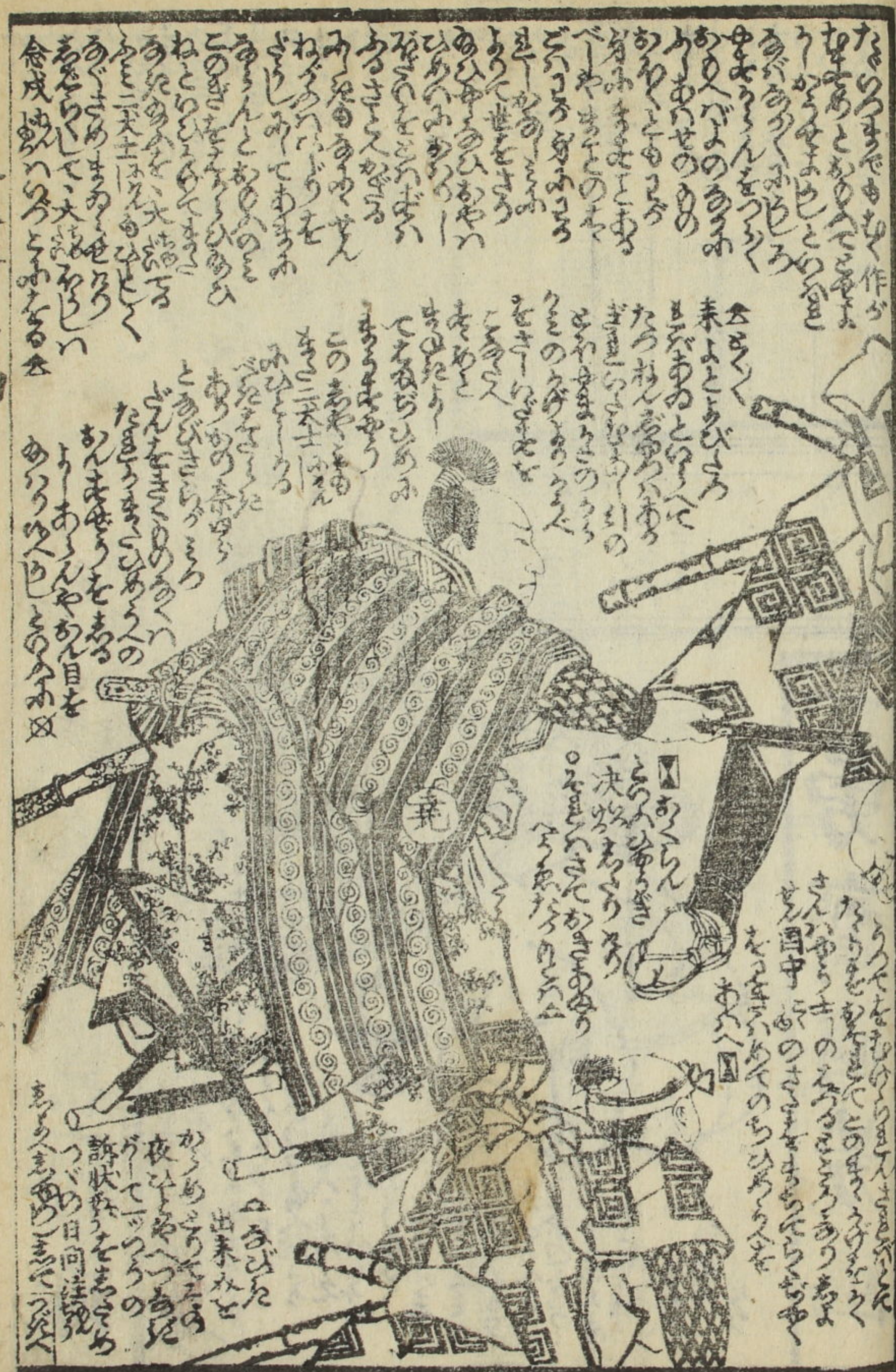


信乃の心...
 ちよとせ...
 正のらく...
 ちよとせ...
 正のらく...
 ちよとせ...
 正のらく...



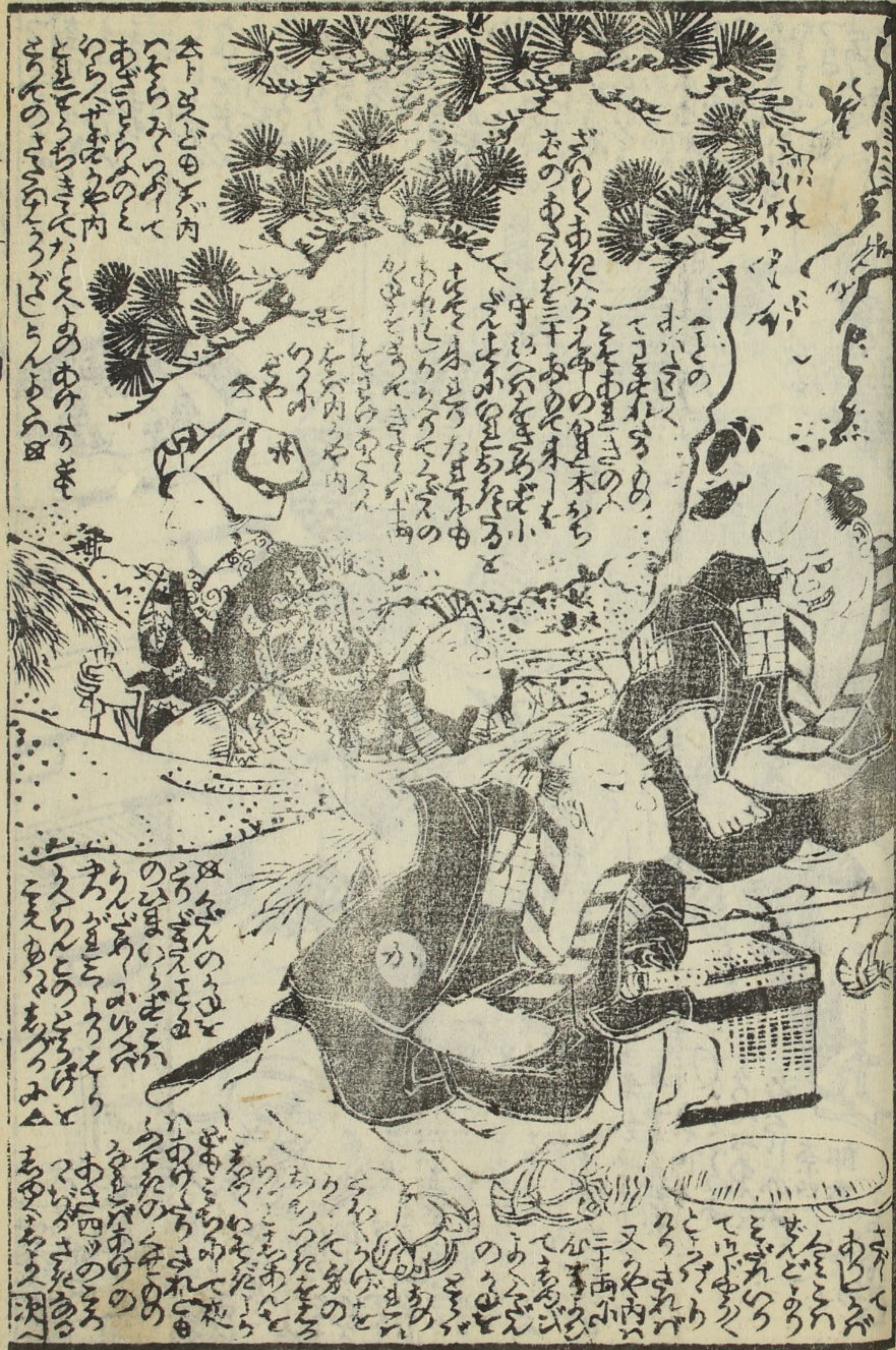
ふらふらと
のびのびと
たてまつる
いさげんぎんぬ
のりふくとあひひの
かみまきあひひの
信乃の道節
きみあひひて十四年の厄
まけてこころうろくせぬ
まはせぬとて
ひひのちちのちちのちち
このひひのちちのちち
のちちのちちのちち
まはせぬとて
かみまきあひひの
ひひのちちのちちのちち
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて

あひひのちちのちちのちち
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて



たのしみ
おもしろ
うらやま
あはれ
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて

あひひのちちのちちのちち
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて
まはせぬとて

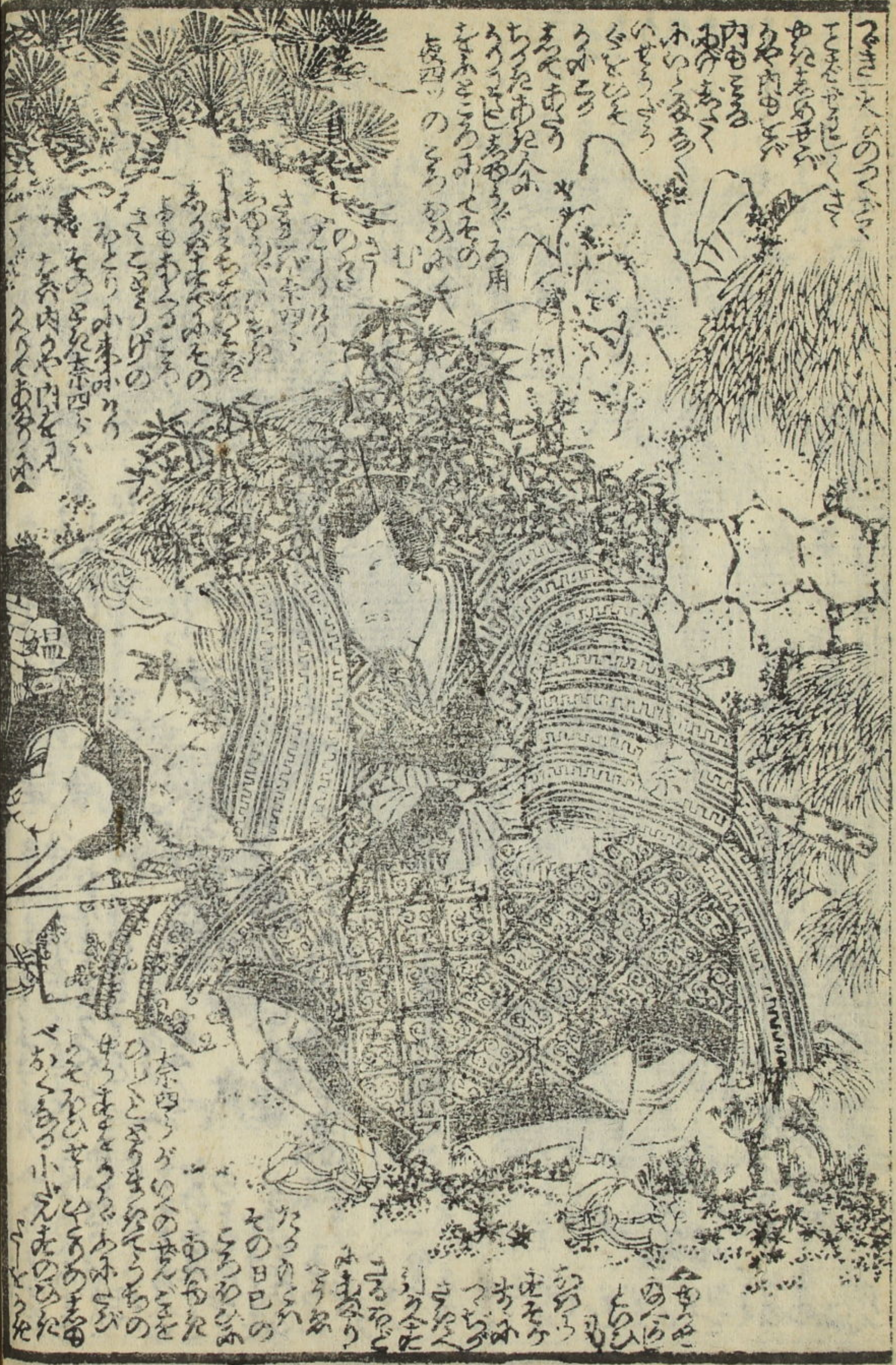


松下はどの内
いさらみやうて
あまのつらみ
ゆりうずまの内
とほちちまてかへんのあひつきぎ
そののちまてろげんらり

まひして
てこまてらぬぬ
まひあはたが
まのあひまを
まひあはたが
まのあひまを

いんえのうま
のひまわいふ
あまのつらみ
ゆりうずまの
とほちちまて

あまのつらみ
ゆりうずまの
とほちちまて
そののちまて



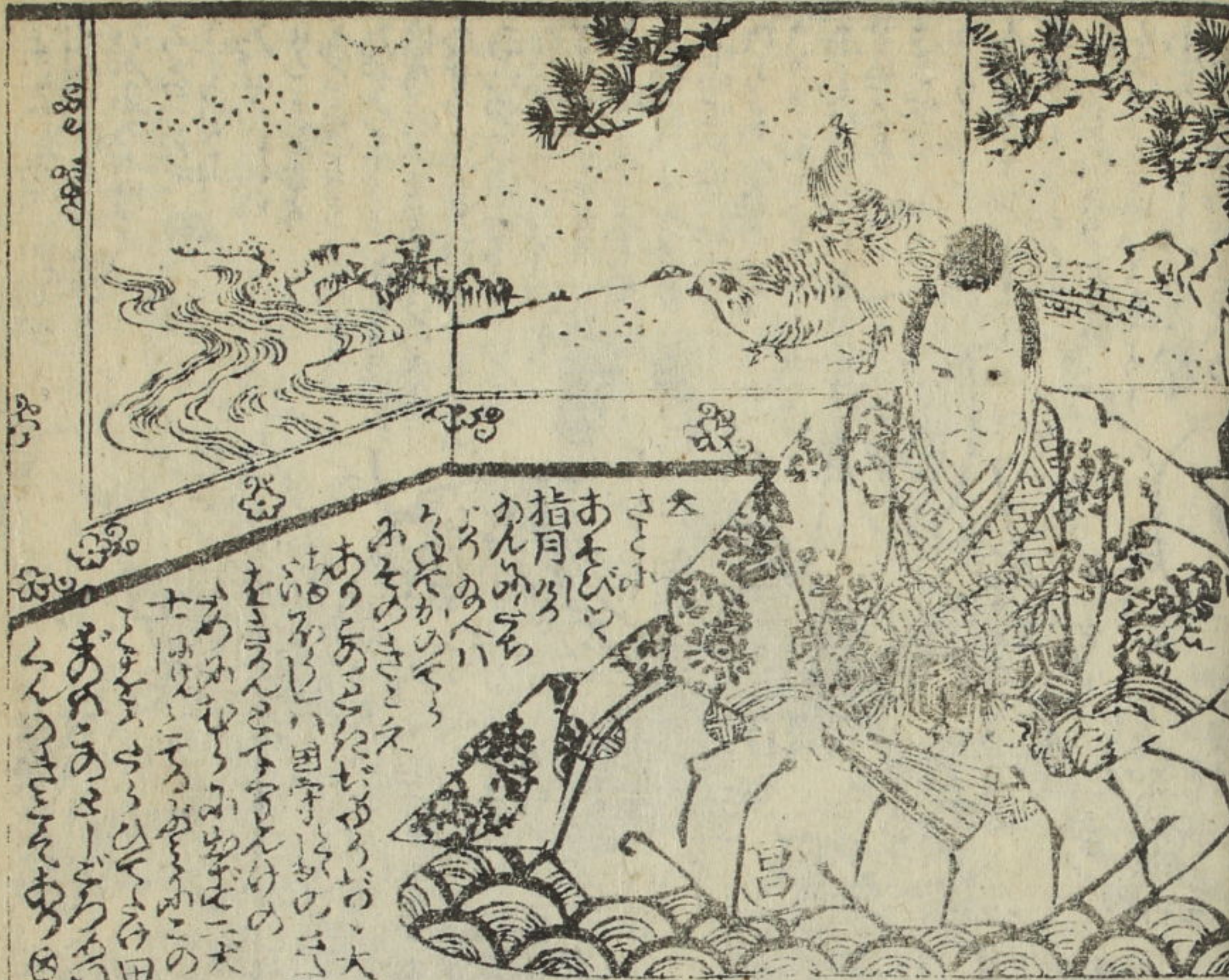
こまてらぬぬ
まひあはたが
まのあひまを
まひあはたが
まのあひまを
まひあはたが
まのあひまを

まひあはたが
まのあひまを
まひあはたが
まのあひまを

信乃のめ
 ちのちのめ
 のてしめ
 ことあるべし
 家臣しん
 とありし
 あうね
 本四
 あうね
 ちのちのめ
 のてしめ
 ことあるべし
 家臣しん
 とありし
 あうね



信乃のめ
 ちのちのめ
 のてしめ
 ことあるべし
 家臣しん
 とありし
 あうね



信乃のめ
 ちのちのめ
 のてしめ
 ことあるべし
 家臣しん
 とありし
 あうね



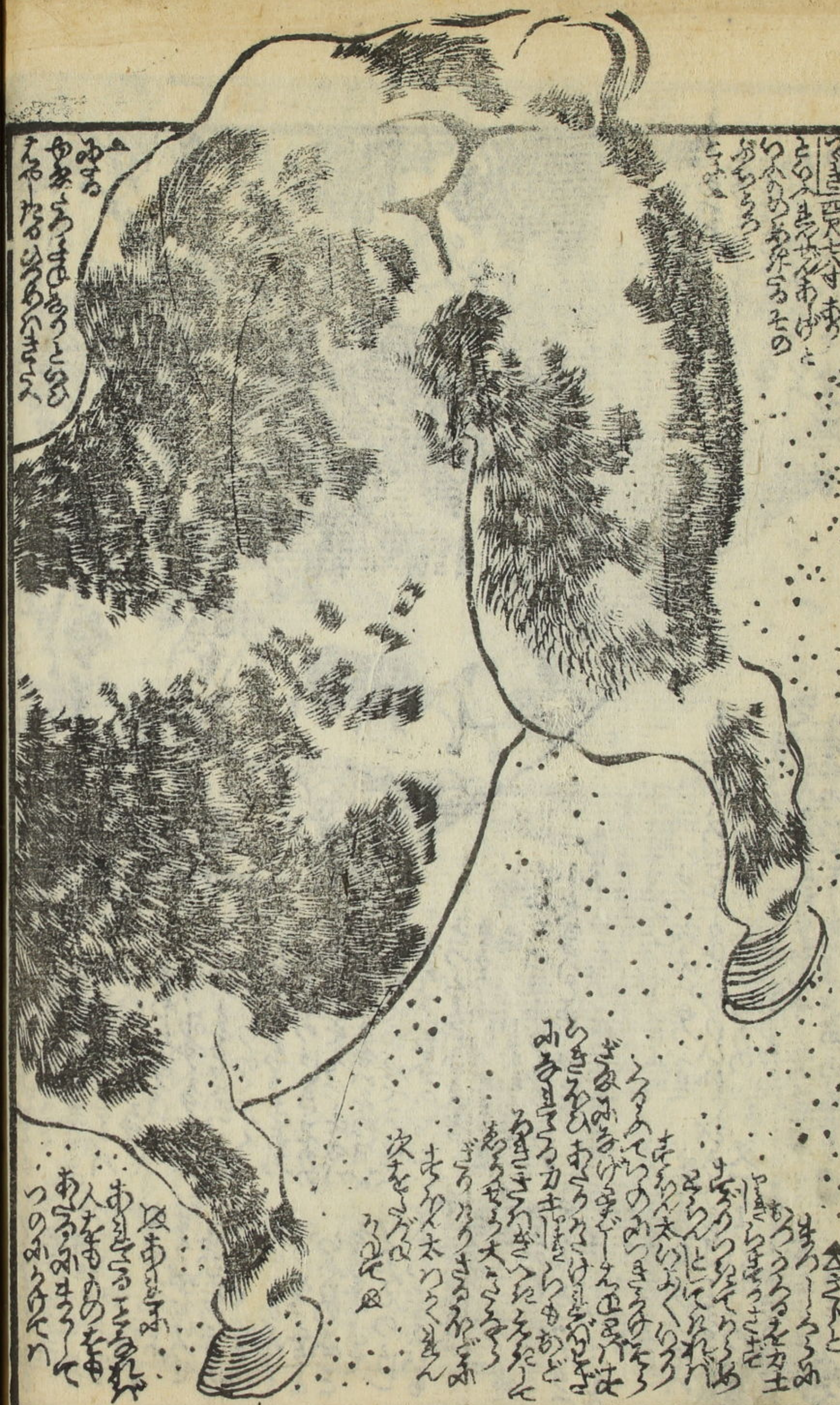
あつたての... 信乃の... 大傳世一編... 信乃の... 大傳世一編...



あつたての... 信乃の... 大傳世一編... 信乃の... 大傳世一編...

あつたての... 信乃の... 大傳世一編... 信乃の... 大傳世一編...

身長四尺六寸あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ



身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ

身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ

身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ



身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ
身長一丈二尺あり
その入息はあけ
り人のめあせりその
あはれ

ついでにのそらうをまうつたふ
まのしん太の小文吾をりん
とまるをひうまうりて
つのもをりうとまり
なりこまうり
二十二人のあをひら

家傳神女湯 ぬかの一包代
 精製奇應丸 大包金采中包
 熊膽黒九子 一包代五分
 婦人使虫の妙薬 一包代五元
 製薬本家 瀧澤氏
 弘 慶 元餘町北下野の向



曲亭琴童抄録

花の盛りふ月ハ隈るをのみ観るものうらた双が岡の時人いりう。二五の月
 の圓うるも翌夜へを越るふ近く盛昌の花の白やうるの卻て衰謝
 遠うるも物皆必盛衰あり唐山の最上世堯舜禹の三聖相兼く極盛の時
 とのども洪水の害三苗の乱あり彼我國の類ふありぬ此大皇國ハ八百
 萬千萬世までも長久ふの栄えぬ栄えぬ今の御代の盛昌ある日月と
 どの小限りも話説みのみ用く古への修羅の鼓みぬた變て腹鼓打つ
 國人ハ理義ハ聰明ハ才長かり然るに俺がこと思入もその大徳沢
 漏れりて静けた菴の机の對ひ見ぬ世の人を友とまるものゆと過分
 太平の樂民多と思ふぬぬ餘りある古ハ書ゆて知りつ今の世の
 有難たを自祝する愚心を憚らぬ此合巻ハ序すると爾り

嘉永八年乙卯春新鑄

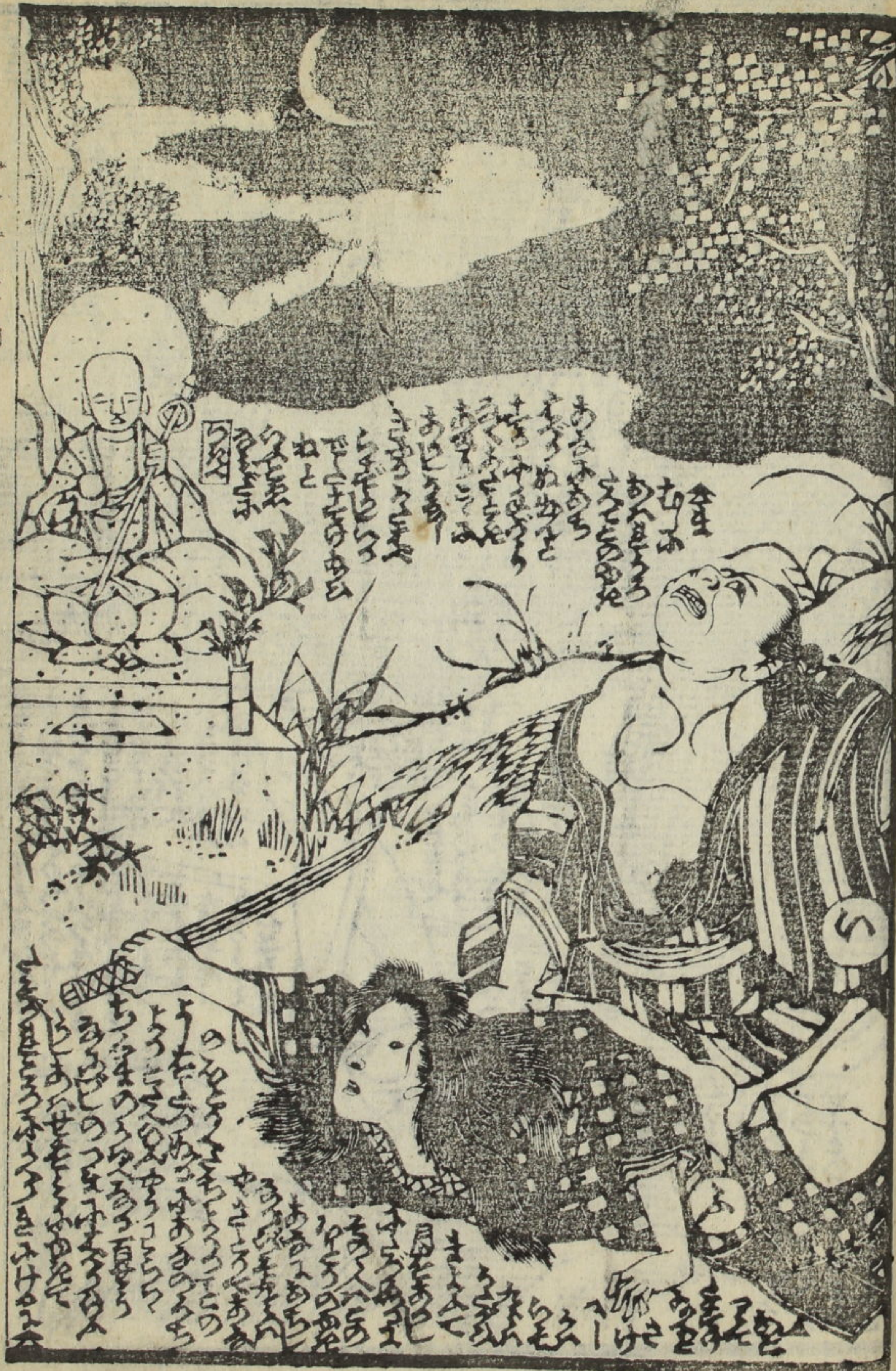
曲亭琴童誌



八天傳七二編

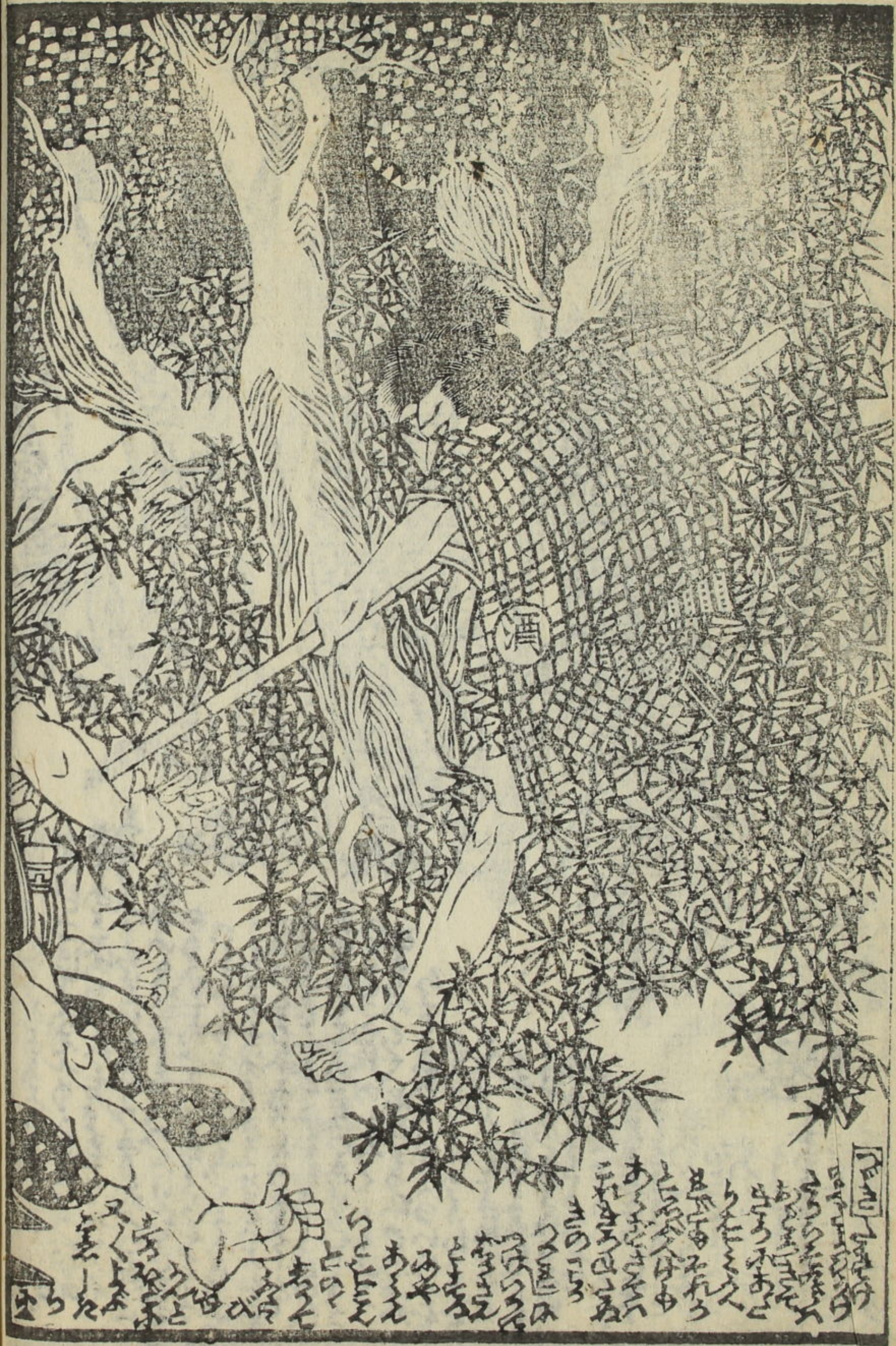


八天傳七二編



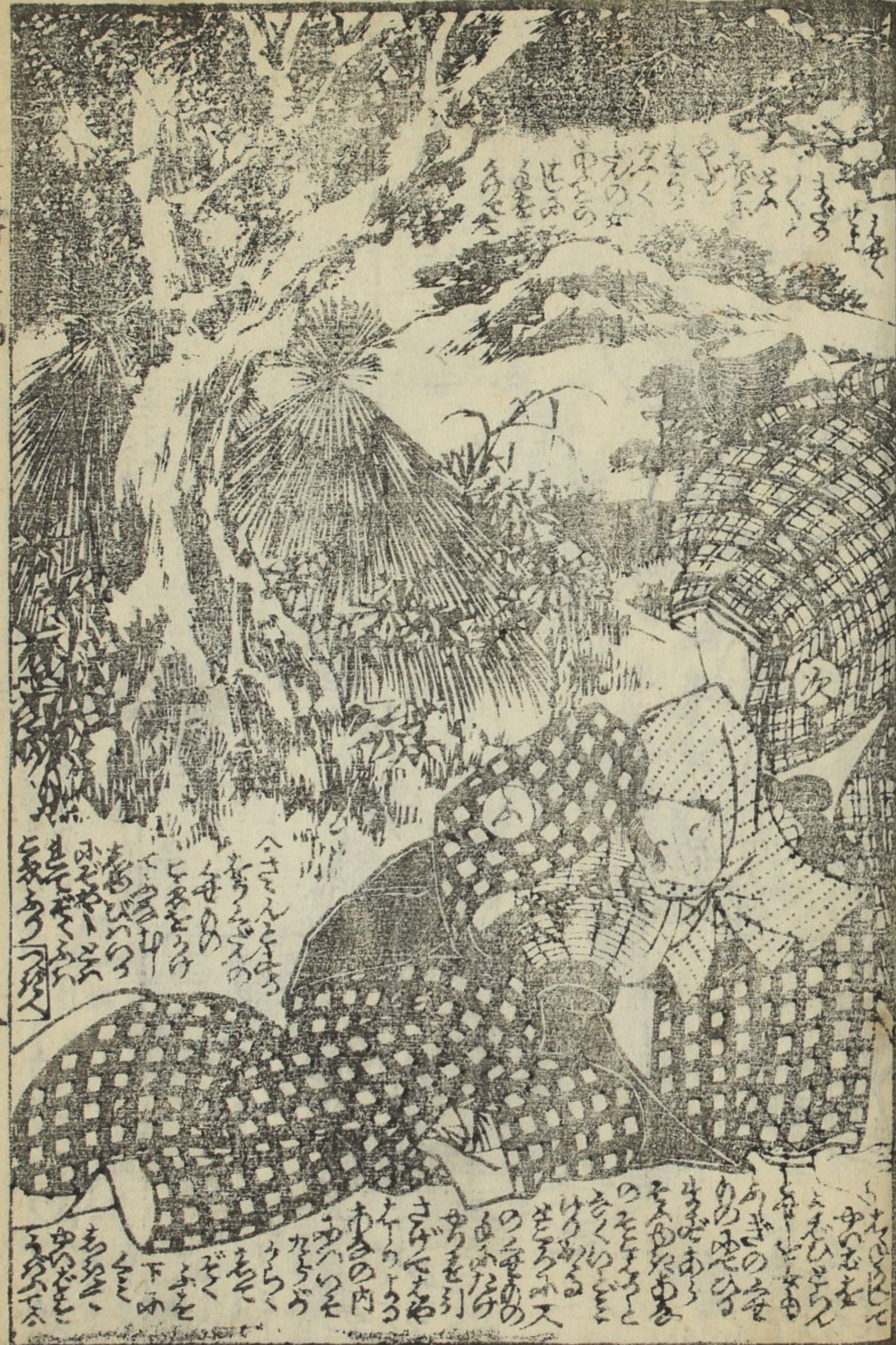
Handwritten text on the left margin of the top page.

Handwritten character '上' (Upper) on the left margin of the bottom page.



Handwritten text on the right margin of the top page.

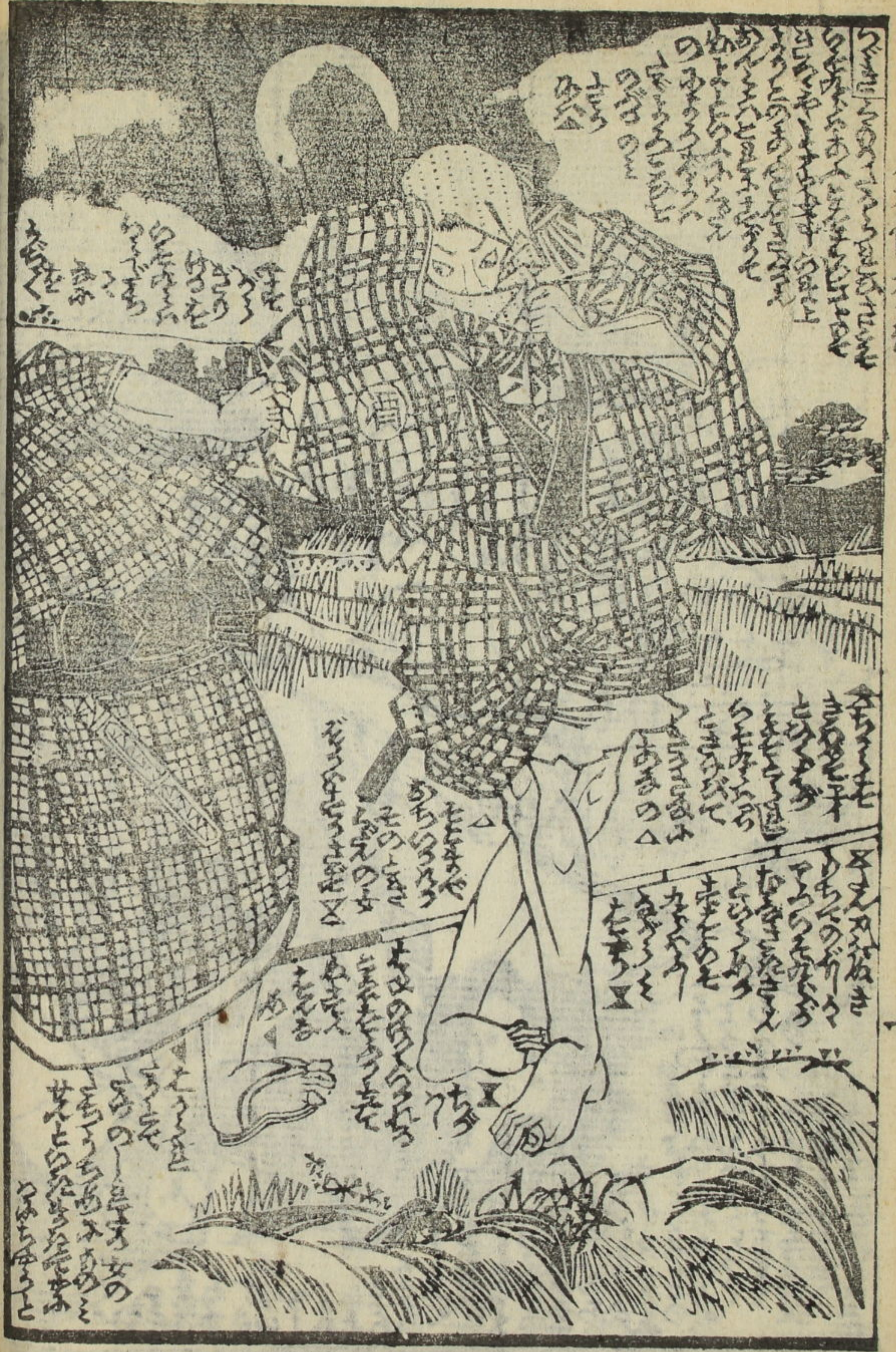
Handwritten character '下' (Lower) on the right margin of the bottom page.



Vertical text on the left edge of the page.

かきこもる
きんぎょの
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる

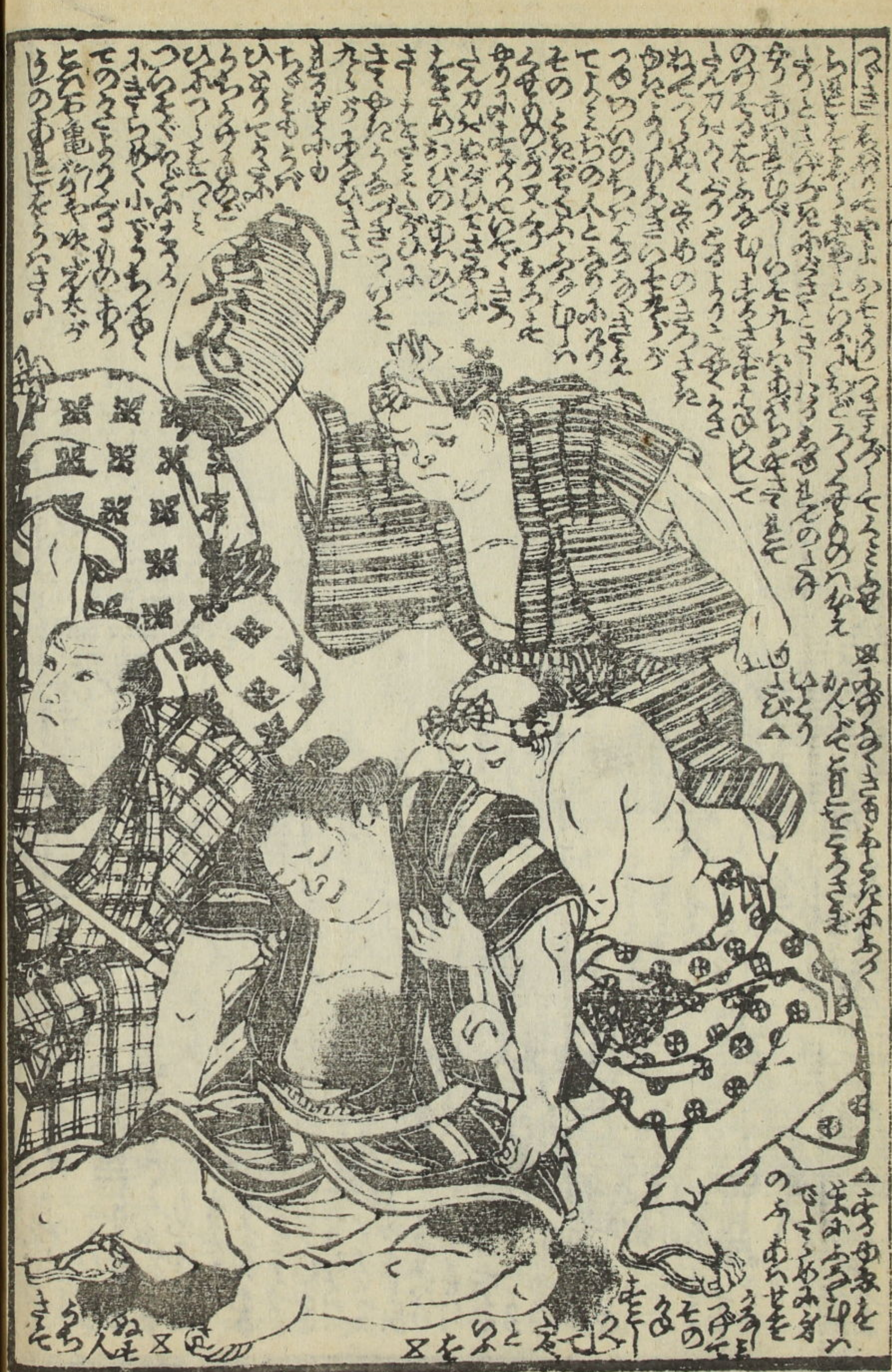
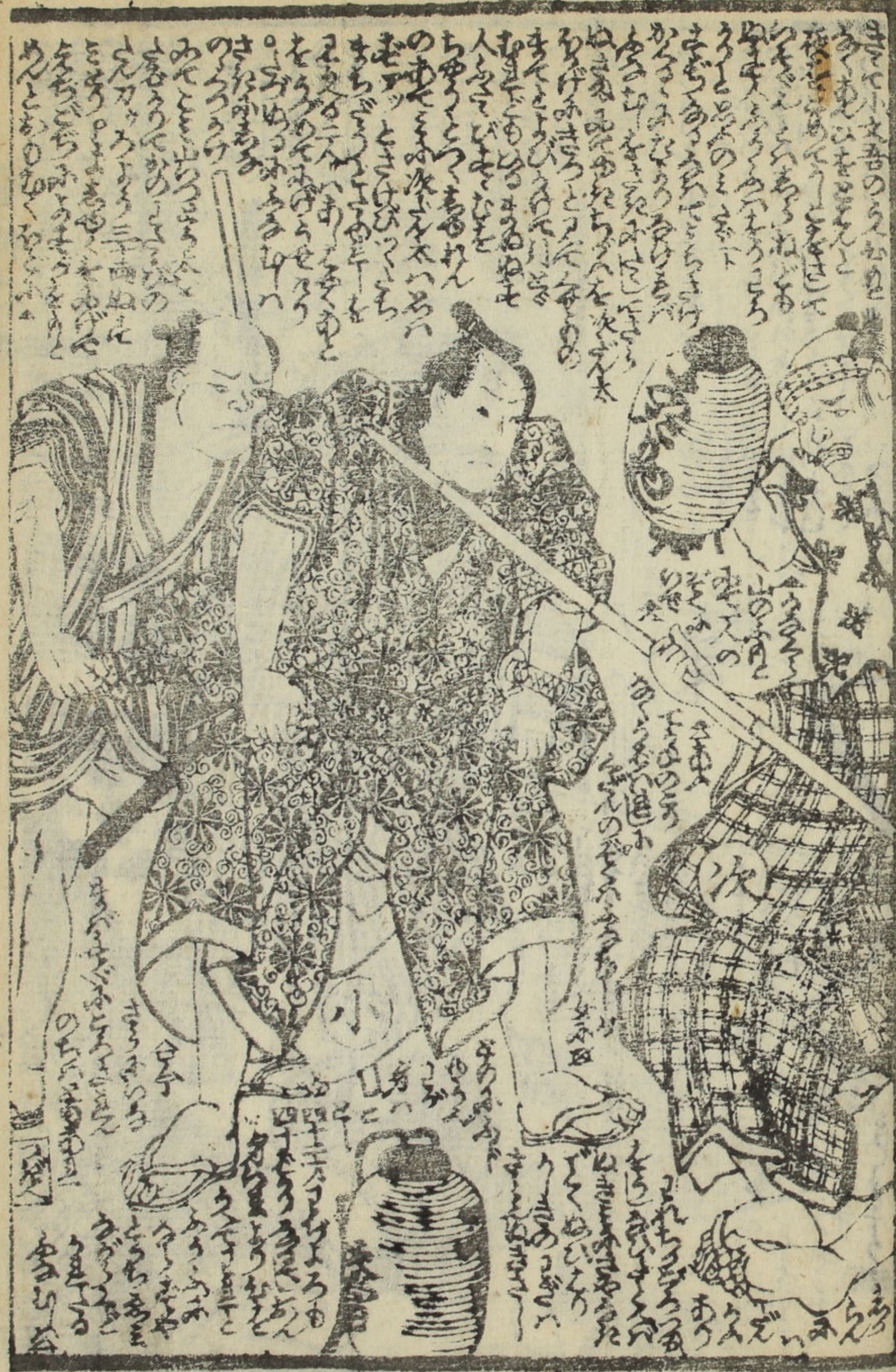
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる

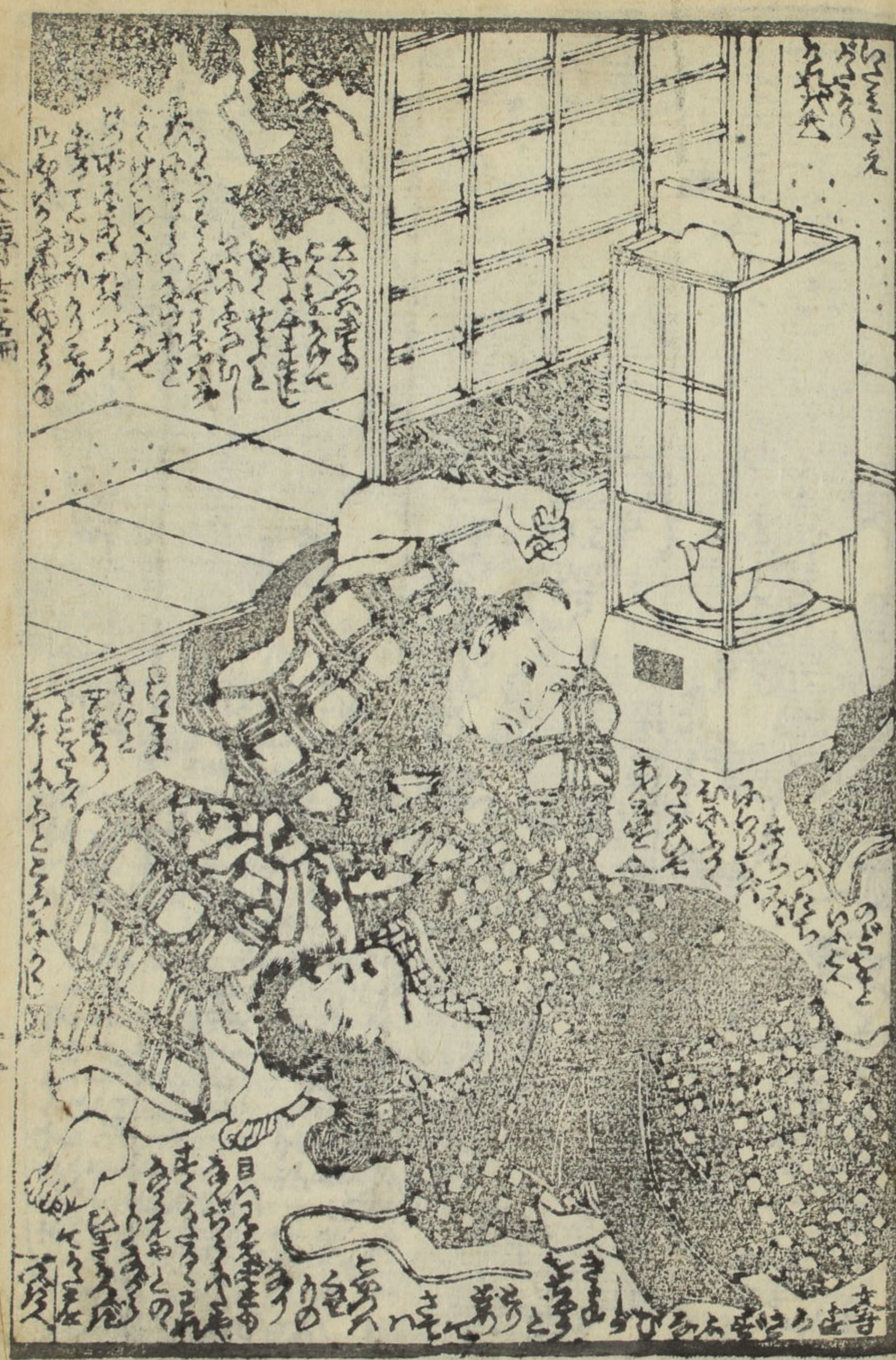


かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる

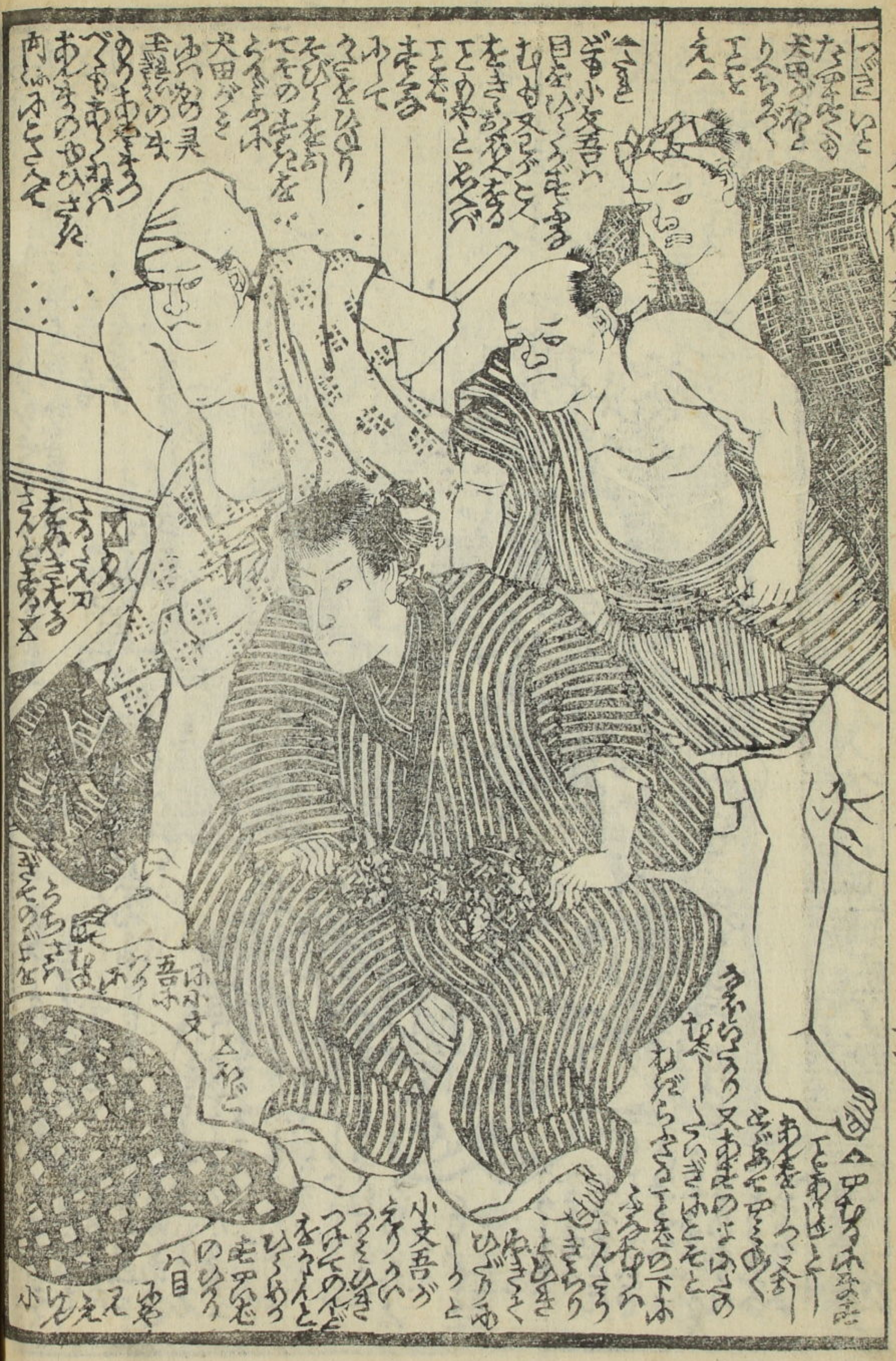
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる

かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる
かきこもる



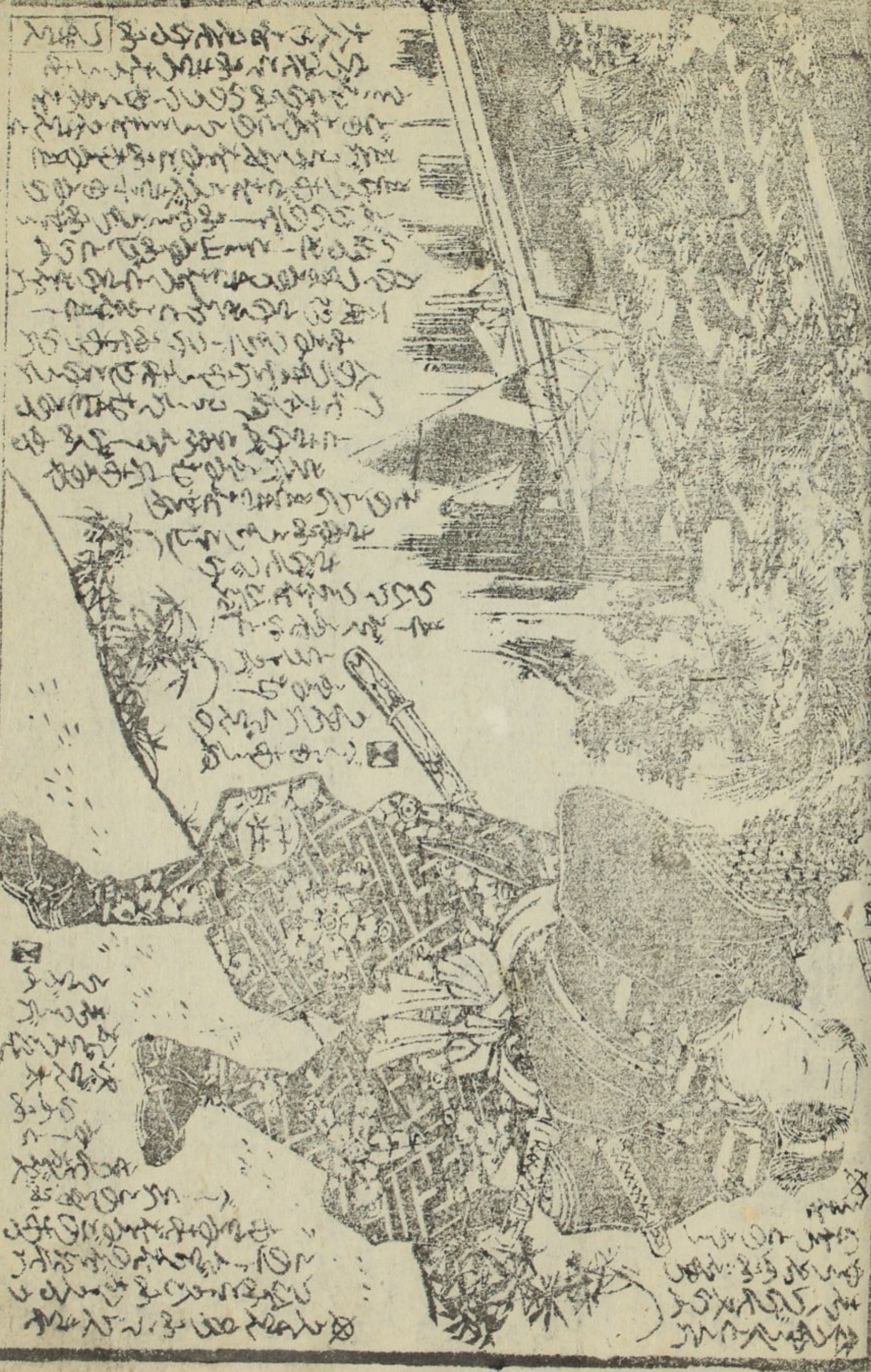


天保三十四年

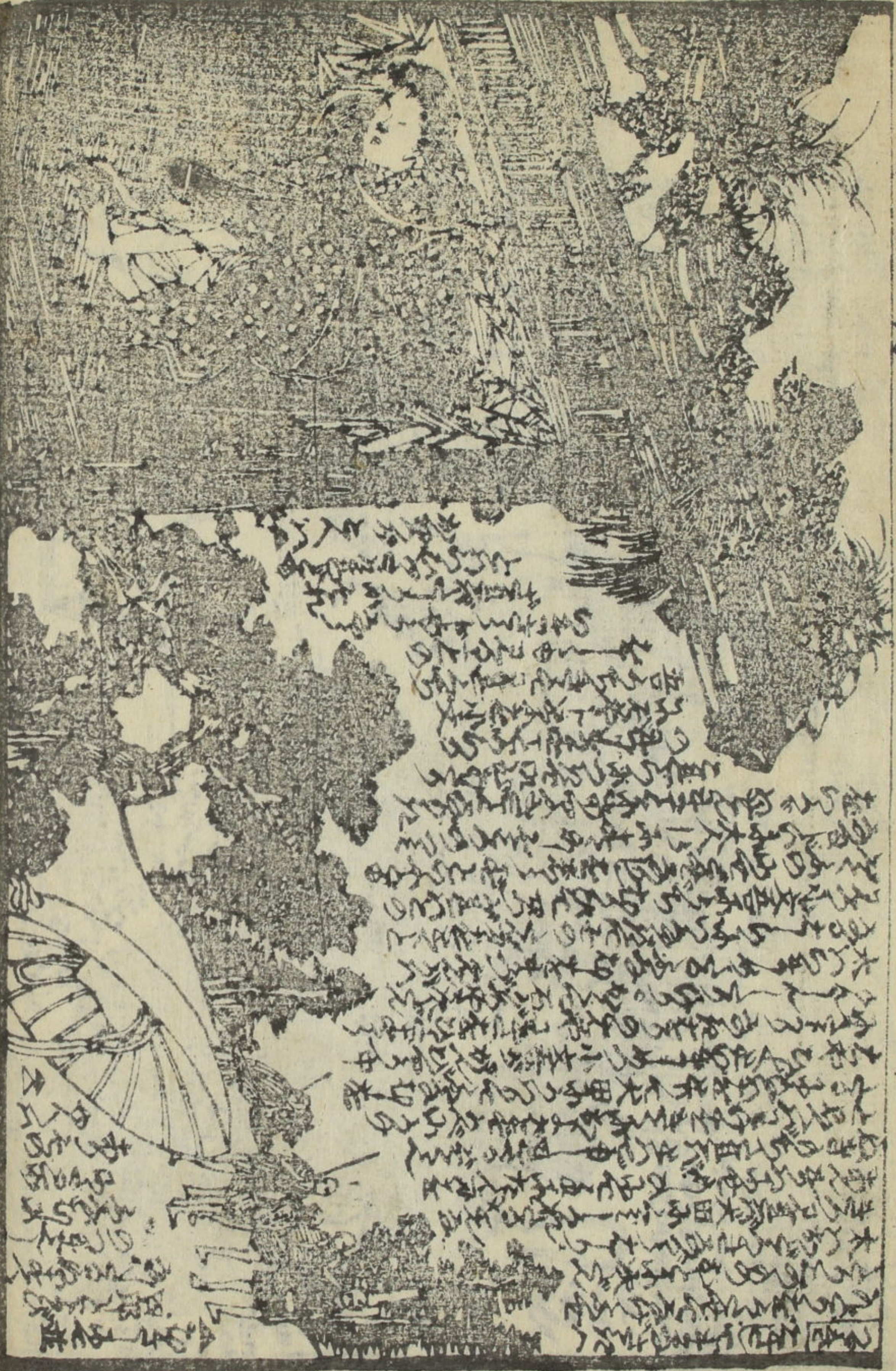


天保三十四年

天
傳
元
二
編

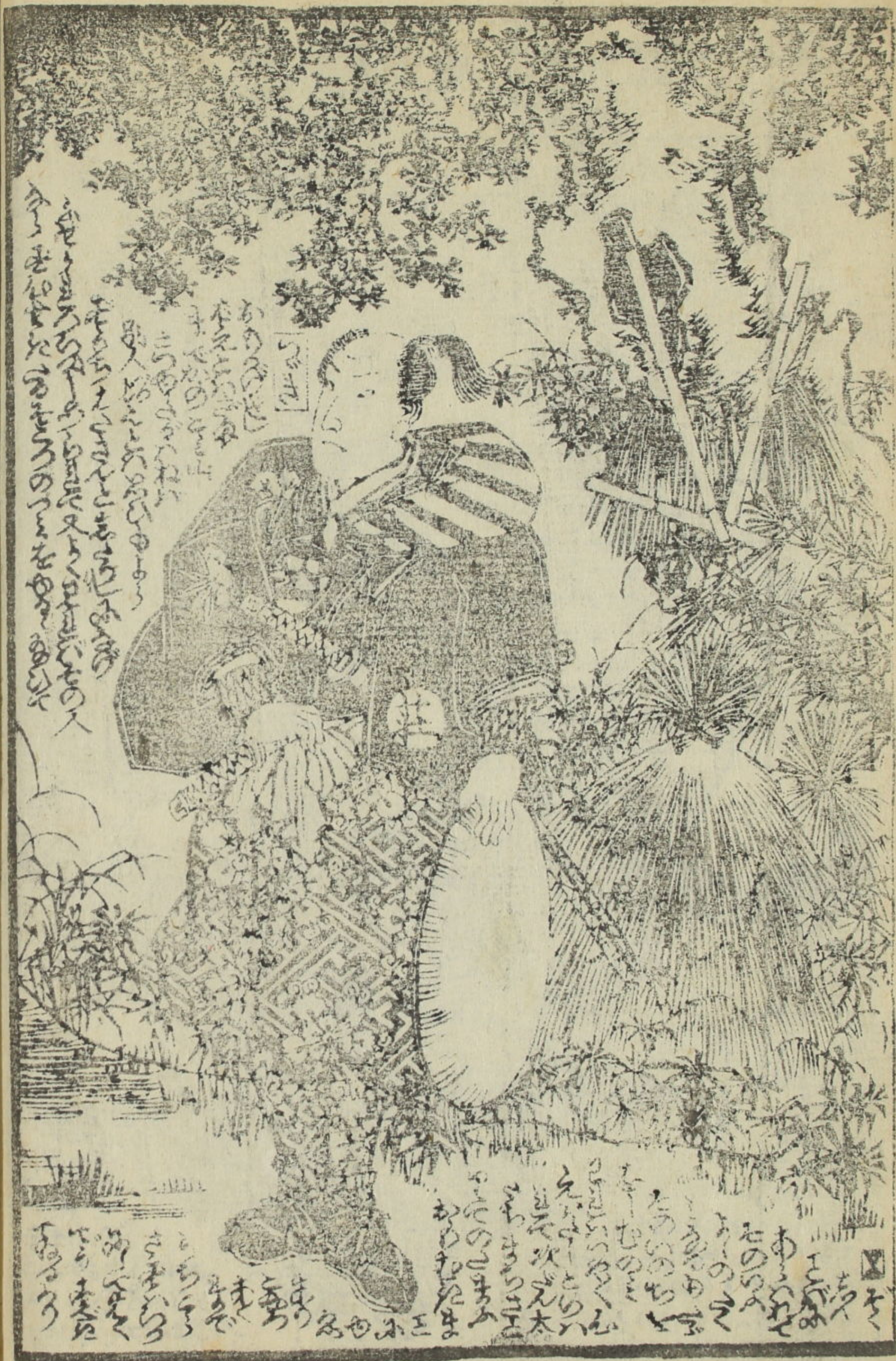


十
二

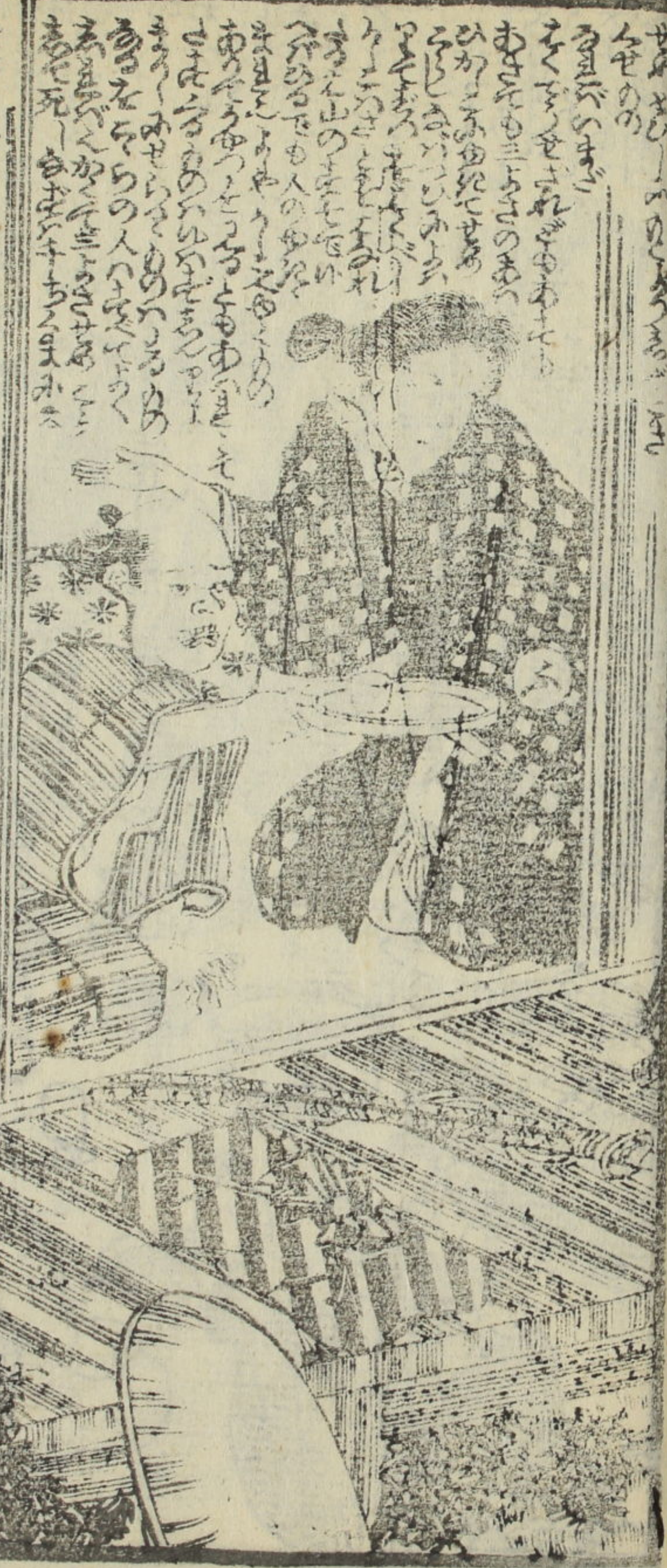


天
傳
元
二
編

十
二



石のうへに...
大傳世三編



大傳世三編
石のうへに...



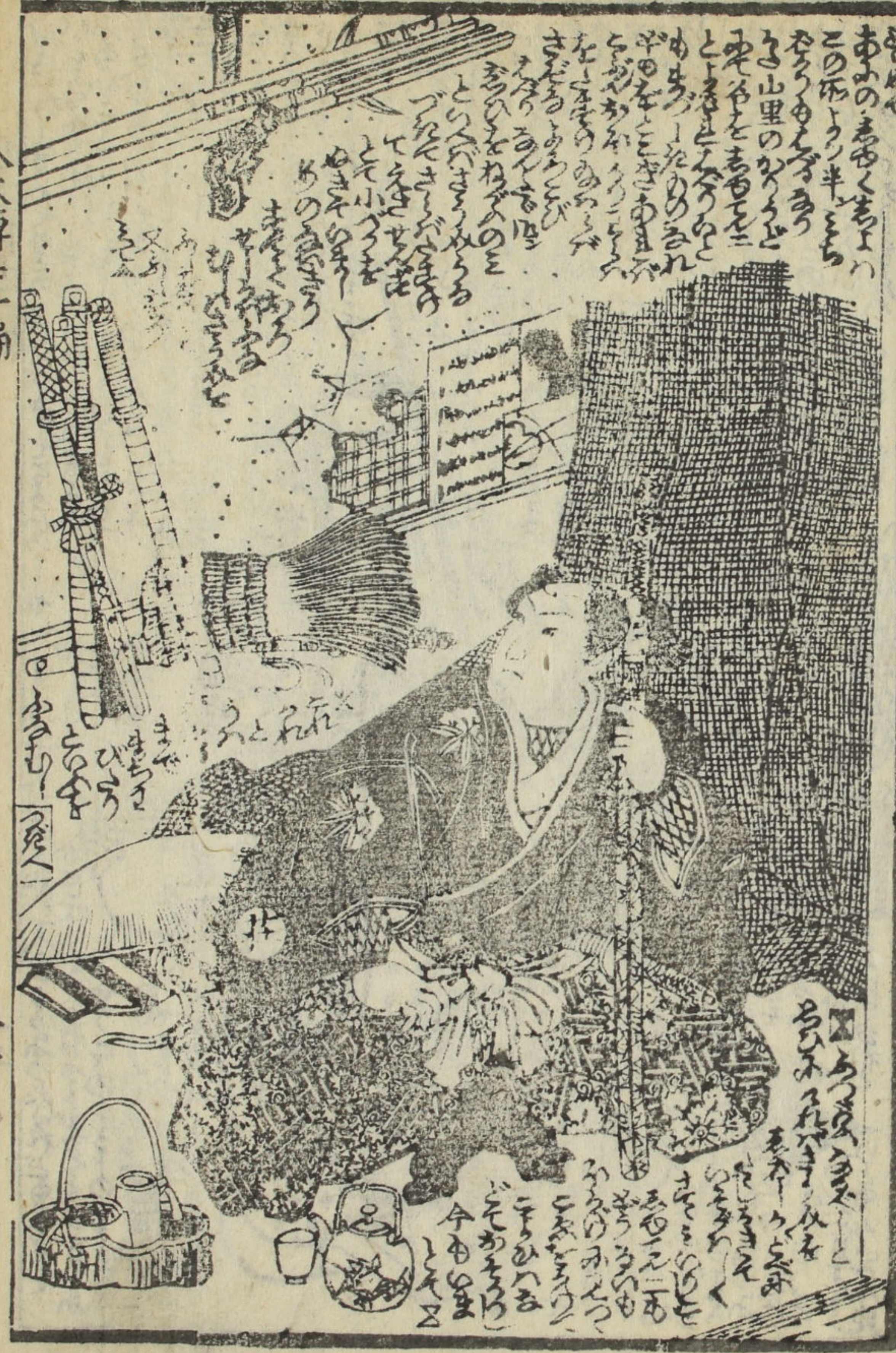
大傳世三編



此の所へ入るに
寺の境内に
石段ありて
上りて
大徳寺
と云ふ
寺あり
此の寺
は
大徳寺
の
境内
に
あり
て
上り
て
大徳寺
と
云ふ
寺
あり
此の寺
は
大徳寺
の
境内
に
あり
て
上り
て
大徳寺
と
云ふ
寺
あり



此の所へ入るに
寺の境内に
石段ありて
上りて
大徳寺
と云ふ
寺あり
此の寺
は
大徳寺
の
境内
に
あり
て
上り
て
大徳寺
と
云ふ
寺
あり



此の所へ入るに
寺の境内に
石段ありて
上りて
大徳寺
と云ふ
寺あり
此の寺
は
大徳寺
の
境内
に
あり
て
上り
て
大徳寺
と
云ふ
寺
あり

大徳寺

大徳寺

This page features a central illustration of a man seated on a patterned mat, wearing a checkered kimono with a circular crest. He holds a long, thin staff or pipe. To his left, a smaller figure is partially visible. The scene is surrounded by numerous vertical columns of handwritten Japanese text in kuzushiji script. The text is densely packed and covers much of the page's surface.

This page features an illustration with three main figures. The central figure is a man in a patterned kimono, looking towards the right. To his left, a smaller figure with a beard and traditional headgear is visible. To his right, another figure in a patterned kimono is partially shown. The scene is surrounded by vertical columns of handwritten Japanese text, similar to the style on the opposite page.



八天傳七二集



八天傳七二集

婦人血の虧り 一包
諸病の妙薬 代乳

精製 高應丸 大包金葉中包一包五分
小包五分 神效無比

熊胆黒丸 一包代五分
多の効ありて 神のせい

婦人後の妙薬 一包代五分
多の効ありて 神のせい

製薬本家 弘前 澤氏
弘前 飯田中坊下 丸見沢氏

▲この丸は 婦人血の虧り 一包
小丸 一包代五分 大丸 一包代五分

あつたも 丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

とある せいで 外用 せよと あり

りつ 小丸は 人を 又 兩三 日 せよ

せよ 丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

まうの 丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

とあり 丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

曲亭琴童抄録

つぎ 丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

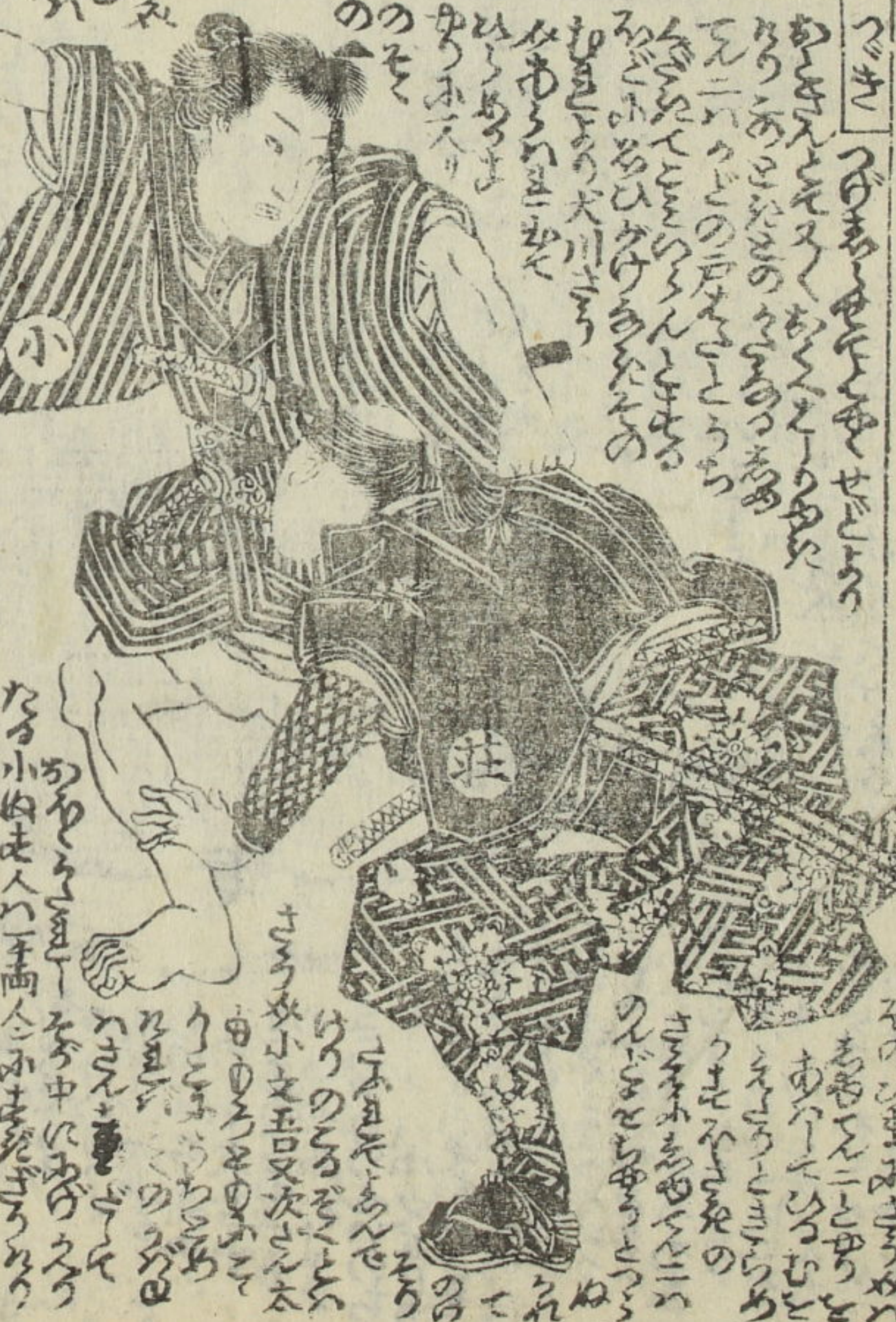
丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

一勇齋國芳画圖



丸見沢氏の 秘伝の 妙薬

